

## 本報告書の概要

本報告書は、関西学院大学経営戦略研究科において2015年度に開講された授業についての学生及び教員による評価アンケート結果をまとめたものである。授業評価アンケートを実施した授業科目は、原則的に2015年度に開講された339講義である。2015年度の授業評価アンケート調査実施対象授業科目の履修登録者数は3,273人（延べ人数、以下同じ）で、実際にアンケート調査を回答した者は2,988人であり、アンケート調査の回答率は91.29%であった。

学生による評価アンケートは、設問1から設問9が「教員の授業内容と方法」について、設問10と設問11が「学生自身の取り組み」について、設問12から設問14が「授業の満足度」についての質問となっており、5段階評価で回答することとなっている。

経営戦略専攻企業経営戦略コースの学生の今回のアンケート結果について分析すると、2015年度の全科目群の評価であるが、春学期、秋学期、通年とも、学生からの評価の水準は、概ね高い水準を維持している。授業への満足度を問う設問13の「この授業は全般的に満足のいくものでしたか。」のスコアは、通年で4.45、春学期が4.44、秋学期が4.46であり、十分に高い水準であると考えられる。設問の中で最も高いスコアだったのは、設問3の「教員は、担当科目の授業を行うのに十分な専門知識を持っていましたか」で、2015年度も通年で4.74と高い水準を保っている。担当教員が授業を行うための専門知識に関しては、学生から高く評価されていると考えられる。他方、以前から継続して見られることであるが、学生自身の取り組みについての問いである設問10の「この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか」および設問11の「この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか」のスコアは、教員の授業内容や方法、授業の満足度についての設問のスコア（設問1～9、設問12～14）に比較して低い状況が続いており、授業外での課題設定を充実させる工夫が必要となろう。

次に、コア科目群(表2)、ベーシック科目群(表3)、アドバンスト科目群(表4)のデータを分析する。コア科目群は、通年の満足度が4.16であり、昨年より若干低下したものの、依然として高い水準を維持している。その他の設問を見ても、概ね昨年の水準を維持しており、現段階では大きな問題は認められない。

学生満足度に関しては、コア科目、ベーシック科目、アドバンスト科目の科目群別に、設問12の「この授業を受けることで分析能力や批判力がついたと思いますか」、設問13の「この授業は全般的に満足のいくものでしたか」、設問14の「この授業は今後の学習にとって有意義なものでしたか」の科目ごとの平均（小数第3位で四捨五入）を示したものである。各科目の授業の平均点については、履修人数、受講した学生など、様々な事情も絡

んでいる。個々の教員がそれぞれに適切に分析し、今後の授業に生かしていくことが求められるであろう。

経営戦略専攻企業経営戦略コース所属教員による担当科目の自己評価については、コア、ベーシック、アドバンスト、課題研究の4つの科目群に分けて考察した。「最も力を入れたこと」としては、コア科目群では、基本的な理論・フレームワークを習得することに力点が置かれ、また、ビジネスに直結して応用させることが意識されていた。ベーシック科目群については、コア科目にはない新しい専門分野の科目ではコア科目群と同様に「基礎的な知識を体系だてる」など基礎的な概念や理論の理解を挙げる教員が多く、それ以外の科目ではコア科目の発展的な内容を意識したものが多く、より実践に結び付けようとしていた。アドバンスト科目群で発展的な科目という性質から、その内容は多岐にわたっていた。課題研究科目群では、課題研究基礎では「課題研究論文の進め方を理解させること」が多く、課題研究では研究内容の充実とスムーズな進め方が挙げられていた。

「実施してよかった点」については、コア科目群では小テストやレポート、演習問題や実習による理解度の向上と、グループ討議やグループ研究発表などの学生間の対話および学生と教員間の双方向授業を挙げるものが多かった。ベーシック科目群では双方向授業の工夫と基礎知識を身近に理解することとそこから応用を強化する工夫、授業前の学習を促す工夫が挙げられていた。アドバンスト科目群では、グループワーク、ケース・スタディ、教員作成のケースを用いた講義・ディスカッション、毎回の小テストとその解説、毎回課すレポートとそのうちの優れたレポートの紹介、グループ研究発表、授業内容を再度理解できるような宿題を課す、など、ベーシック科目でも見られた工夫のほか、最新事例の紹介、受講生によるプロジェクト報告、自社の分析を課すこと、ゲストスピーカーを招く、学んだことを自らの職場で試してレポートを課すなどが挙げられていた。課題研究科目群では、課題研究基礎では「ミニ課題研究論文」として、論文形式のレポートの提出を課すが多く、課題研究では早期から課題研究論文作成の準備や学生がレベル高い論文を書くためのモチベーションを上げる工夫が多く挙げられていた。

「改善・工夫をしたほうが良い点」については、課題研究科目群以外では共通していかに双方向授業や学生間の討議を活発にするか、学生の積極性を引き出すか、復習を促すか、など、常に改善のための試行錯誤をする姿が見られた。数字を扱う授業では受講者の理解度のばらつきに対する対応が挙げられていた。課題研究科目群ではいかに期間内に効率的に研究を遂行するかの工夫が挙げられていた。

「目標が達成されたか」については、「おおむね達成された」とする教員がいた一方で、「今年は何々をしてみた」など毎年工夫を重ねている教員は多い。今後も教員間で改善点や工夫点を共有して、また、個々の学生による授業評価アンケートの結果に基づいて改善を重

ねる努力をしていきたいものである。

国際経営コースの学生の今回のアンケート結果について分析すると、まず通年での学生による授業全体評価の水準自体は概ね高い評価で推移している。2015年度の数値は2014年に比べてほぼ同程度で推移している。設問14のうち半分の7項目で2015年度は2014年度を上回り、それ以外の項目で若干下回った。しかし、通年で見ると、設問10の4.45を除いてほぼすべての質問項目の平均が4.5点を上回る高い数字であり、「Strongly Agree」、「Agree」の中間の値であるがどちらかというところ「Strongly Agree」に近い数字となっている。つまり、質問項目のすべてが4.0を超えているという「高い評価」結果を得ている。さらに、多くの質問項目の平均点が4.5を上回る高水準であることを評価したい。

次に、過去2年との比較をしてみると、一昨年2014年度は平均すると2013年度レベルと同じであったが、2015年度は多くの項目で2014年度を上回った。背景には、継続的な教員のFDの努力が伺えるが、学生数が少人数のクラスのため丁寧で学生と教授間の応答型の教育手法が維持され教える内容が学生に十分に伝わるクラスが多かったことで学生満足度が向上したと考える。また、近年の学生の国籍が多様化していること、多様な意見が集う討論形式の授業が多いので学生のクラスへの貢献と理解度の向上が工夫されているので満足度が高いとも考えられる。今後の評価の傾向を注視すべきであるが、この高い満足レベルを維持したいと考える。

個々の質問項目の評価点を詳細に分析すると、高い評価の3つの項目を見てみると、質問項目3「The instructor's knowledge level was high enough to teach the course」においては4.74、設問5「The instructor encouraged students comments and discussion」が4.68、設問2「The instructor was well prepared for the classes」が4.68であった。昨年一番高い評価であった設問1「The course met the objectives and topics described in the syllabus」が4.62と4.72から若干評価を下げた。トップ3から伺えるのは、教員に対する学生の高い評価である。教員全体が継続的な教育の向上活動（FD）を行った結果の反映であると考えられる。

次に高い評価が見られるのは、例えば質問項目6「Instructor's interest in whether students learned was high」が4.66、質問9「The instructor answered students' questions clearly and sufficiently」がともに4.64、設問14「Course content were highly relevant and useful for your future career」が4.62などであった。

一方、比較的低い評価であったのは、質問11「You made additional efforts for the course such as searching related materials for course topics」が4.38、質問10「You prepared and reviewed thoroughly for the classes」が4.45、質問8「The course was well prepared in

terms of contents and time allocation」 4.45、質問 7 「The amount of work assigned was reasonable」 の 4.53、質問 4 「The prescribed textbooks and teaching materials were helpful for your learning」 が 4.53 であった。

質問 10、質問 11 に関しては 2013 年度もそれぞれ 4.44、4.38 と比較的 low 評価であったが、コースに対する学生の姿勢に若干問題があるのかなと思わせる。質問 8 が昨年より評価を下げた。教員のコース時間・量の配分について少し問題があったのかもしれない。上記質問 7 に関しては、宿題が多すぎるのかそれとも少なすぎるのかわからない。おそらくコースによってばらつきが多いのであろう。質問 4 の結果は、2013 年、2014 年にくらべて少し向上している傾向が見られるので、学生がテキストを購入し、事前に準備してきている傾向にあるのではないだろうか。

これらの分析結果から伺えるのは、学生の勉強意欲が昨年度、一昨年度より高くなったが、全体では比較的 low レベルである点である。昨年度も指摘したが、学生の勉強意欲の低下が授業の内容が難しく感じる、または勉強時間が足りなかったという評価がこのような結果になったのではないだろうか。また、教員の時間・量の配分にこれから注意を払うべきであろう。

国際経営コース所属教員による担当科目の自己評価からは、授業評価の結果が秀でた科目では、毎年指摘されているが、視聴覚教材やゲストスピーカーなど多様な素材を授業で活用したコース、学生が興味を持てる事項や現実の社会情勢を授業に織り交ぜたコース、実際のケースを取り上げた事例研究などが、学生のニーズを的確に捉え満足度向上に貢献しているとの昨年同様の結果が見受けられた。外国人が多い IMC においては日本に関連したトピック、また日本に関する事例経験を知りたいといった欲求の表れであると思われる。

良かったと評価する項目は、学生に授業時にプレゼンテーションを課すことで授業に積極的に関わる姿勢を動機づけするような工夫をすることで学生の学習意欲が上がったと評価している教員が多かった。また、理論や知識だけでなくそれらをどのように応用したかの事例を取り扱ったことが学生の理解の向上につながったなどの意見が見られた。

一方で、今後の改善点としては、もっと外部からスピーカーを招き現実の社会体験を学生に提供したほうが良いのではないかと回答している点、グループ議論を活発化させることが大変である点などから今後工夫して改善すべきであろう。学生の全体数が少ないので教員と学生とのコミュニケーションは活発化していることは非常に良いと感じているが、一方で、学生間のバックグラウンドや知識レベルの違いから議論の盛り上がりの欠けたという意見もあった。また、互いの勉強意欲の啓蒙・研鑽に欠けているとの印象を持った教員も多くいた。これらの傾向は昨年までも見られた傾向である。多国籍な学生の交流をどのように円滑に行うかが問題であるとの意見もあった。

会計専門職専攻の学生の今回のアンケート結果について分析すると、専攻平均値は、2007年度秋学期まで上昇し続けた後、2008年度秋学期まで4.4ないし4.5という値を記録し、その後も、2011年度まで4.3から4.5で順調に推移してきた。2012年度から2013年度春学期には4.6となり、さらに、2013年度秋学期から2014年度春学期、秋学期は4.7、2015年度は4.6であり、総合的な評価としては高位での安定が図られているものといえよう。

ただし、過去、秋学期に比して春学期の方の評点が低いという傾向がみられたが、この点については、秋学期よりも春学期の方の入学者が圧倒的に多く、新入生が専門職大学院のカリキュラムなどに不慣れな点が現れている可能性が考えられる。もっとも、2012年度以降はその様な傾向は見られていない。今後、この傾向が見られる場合には科目群（コア、ベーシック、アドバンスト）ごとの評価などを踏まえた取り組みを検討する必要があるかもしれない。

専攻全体での平均値を見ると、各設問の平均値の傾向に大きな変化はないが、全体としては2012年度前と比較して、2012年度以降では評価値のステージが高位となったことが読み取れる。特に、【設問1】から【設問4】および【設問9】は4.7ないし4.8と高い評価となっている。

【設問1】から【設問4】の値を踏まえると、担当科目についての資質を有する教員が、シラバスに沿って、資料の作成等を含む十分な準備をして授業に臨んでいることについて、学生から高い評価を得ているといえる結果となっている。【設問9】については、各科目の受講者数の減少により、質問をし易い環境があったと推定されるかもしれない。

【設問5】から【設問8】については上記設問に比して相対的には低い評価となっているが、2012年度以降、2014年度秋学期の【設問6】を除き、2014年度までは同位または上昇していた。したがって、授業の方法に関する教員の取り組みに対する評価も高位で安定していたが、2015年度はそれぞれ0.1ポイント減少している。

以上より、専攻平均値の傾向にもみられるように、慎重な配慮も必要ではあるものの、全体としては、授業の事前準備とこれを踏まえた授業の実践などに対して、学生から高い評価を得ているといえる結果となっている。ただし、【設問5】から【設問8】の評価については、他の設問に比して総じて低い値となっている点に留意する必要がある。

そこで、科目群ごとの評価に目を向けると、まず、【設問1】から【設問4】の評価について、コア科目、ベーシック科目とアドバンスト科目の間に大きな差はない。ベーシック科目の2014年度秋学期の評価が4.7と低下したのが気になるが、2015年度には上昇しているので大きな問題はないといえよう。

【設問5】から【設問8】については、コア科目の評価がベーシック科目とアドバンスト

科目の評価に比して低い傾向と状況にある。したがって、前述の専攻全体での【設問 5】から【設問 8】の評価が他の設問に比して相対的に低いのは、コア科目の評価が起因していることが分かる。

教員による自己評価では、アカウンティングスクールの教員による担当科目自己評価にみられる講義への取組みの特徴と今後の改善・工夫への取組みの方向性とさらなる課題として、次の諸点が挙げられるであろう。

まず、コア科目に関しては、基礎的・体系的知識の習得に力点が置かれ、知識の定着を図るべく、小テスト・中間テストの実施、宿題・レポートを課すとともに、独自のレジュメを作成するといった取組みが行われている。学生による授業評価アンケートの【設問 12】（この授業を受けることで分析能力や批判力がついたと思いますか）について、コア科目の評価がベーシック科目とアドバンスト科目の評価に比して低いものとなっている。この点は、上記を踏まえるとやむを得ない部分でもあろうが、授業方法に工夫を図れないか、担当教員に検討を期待したいところである。

理論系の科目と実践（実務）系の科目が含まれるベーシック科目では、基礎的・体系的知識の習得に最も力を入れている講義と、事例・実務を踏まえ講義を行うことに最も力を入れているとする講義がみられる。実施してよかった点においても、事例・実務を踏まえ講義という回答が増えている。また、双方向な講義を実践してよかったとする講義があるとともに、今後、そのような方向に改善・工夫を考えている講義もみられる。

アドバンスト科目では、専門性を高めるために、一定水準の知識・能力の修得、担当科目の詳細な解説を図ることに最も力を入れているとの回答と、事例・実務を踏まえ講義、実践的な能力の修得に最も力を入れたとの回答が多い。そのために、課題などについて、提出するだけにおわらず、これを講義において報告（発表）することを実施する、また、双方向の講義を実践する取組みが多く行われている。

学生による授業評価アンケートでは、【設問 10】（この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか）と【設問 11】（この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか）の値が他の設問に比して低い値となっている。コア科目とベーシック科目では、知識の習得・定着に重きを置き、復習を重視した取組みが行われている傾向にあり、予習、さらには自発的な学習を促す取組みが不十分かもしれない。アドバンスト科目では、課題の報告（発表）や双方向への取組みによってこの点を改善することが図られているかもしれないが、予習・復習、課題、さらに学生の問題意識を喚起し自発的な学習を促す取組みを図っていくことは、1つの課題といえるであろう。

教員による担当科目自己評価ではあるが、最後に、＜改善・工夫をした方がよい点に対する回答内容＞に多くみられた学生の予備知識・理解度の差への対応について言及してお

きたい。1つの項目にまとめているが、回答には大きく2つの側面がある。1つは、実践（実務）系の科目において、実務経験のない学生への対応が講義の実施にあたって配慮すべき要素となっている点である。もう1つは、ベーシック科目、アドバンスト科目では、コア科目・ベーシック科目レベルの知識が不足・欠如していると、講義の理解度に影響することから、その対応に苦慮している点である。前者については、そのような対応への改善・工夫に引き続き取り組んでいくことは不可欠であり、後者については、学生への履修指導、シラバス、講義開始時のガイダンスの改善・充実といったことを図っていくことが必要といえよう。

## 1. 授業評価の目的

学校教育法の改正により、大学・大学院において第三者評価が義務づけられ、専門職大学院においては5年に1回の第三者による認証評価を受けることが求められている。大学・大学院に対する第三者評価制度の導入は、自己点検・評価とともに教育研究水準の継続的な向上を目的としたものである。本学は「授業を通じた知的活性化」を全学的目標として掲げている。また、本経営戦略研究科は、教員の資質維持向上の方策のひとつとして、「授業内容及び方法の改善を図るための組織的な研修等の実施」に取り組んでいる。

本研究科では、授業内容および授業方法の改善を図るため、各クォーターの最終授業時に、学生による授業に関するアンケートと教員の担当科目自己評価を実施することとしている。授業評価の目的は、本研究科学生の実態や現状、学生の授業に対する認識・反応などをアンケートから探り、その結果を分析することによって、教育の現場に反映させる基礎資料を作成し、ビジネススクールおよびアカウンティングスクール教育の質的向上を図るとともに、ビジネススクールおよびアカウンティングスクール教育固有の教学上の諸課題を把握し、解明することにある。ここで注目したいのは、この学生アンケートと並んで、授業担当者自身の授業についての自己評価を学生の評価に合わせて実施していることである。これは、学生のアンケート結果と同時に実施されており、各教員は学生の授業評価結果を見ない段階で授業を振り返ってアンケートの記入を行った。このような試みは、学生の評価と対照することでより良い授業のヒントが得られるものと思われる。

本報告書は、本経営戦略研究科において2015年度に開講した授業についての評価アンケート結果をまとめたものである。本報告書の構成は、エグゼクティブサマリー、2015年度授業評価アンケート結果概要・分析、授業評価アンケート実施科目一覧、授業評価アンケートフォーム、授業別評定平均値一覧、アンケート結果（アンケート授業別集計結果）およびグループ・インタビュー調査結果からなっている。

授業評価に関する調査の企画、調査票の作成、および集計結果についての分析と本報告書の執筆については、本研究科教授会のもとに設置された「経営戦略研究科自己評価委員会」のメンバーを中心として行われた。

調査の実施の方法等についての詳細は、以下の「調査実施方法及び期間等」のとおりである。今回の調査では、ほぼすべての授業科目および学生からの回答が得られた。アンケート実施に当たって、貴重な授業時間を割いていただいた各教員に感謝申し上げます。また、実際に回答を寄せていただいた学生諸君に深く謝意を表す。



## 2. 調査実施方法及び期間等

授業内容については、春学期（第1クォーター、第2クォーター、夏集中）・秋学期（第3クォーター、第4クォーター、冬集中）の授業終了時に受講生による授業評価を実施している。本報告の対象となる授業評価アンケートの実施方法や実施期間等については、以下のとおりである。

### （1）実施対象授業科目について

授業評価アンケートを実施した授業科目は、原則的に2015年度に開講されたすべての講義である。本研究科全体でみた場合、アンケート実施対象科目（複数クラス開講分を含む。ただし、調査回答が全て白紙の科目（2015年度は1講義 履修者数3名が該当）は含めない）は、339講義（春学期166講義、秋学期173講義）である。その内訳は、経営戦略専攻が199講義（企業経営戦略コース135講義、および国際経営コース64講義）、会計専門職専攻が141講義であった。

### （2）回答者、回答率等について

2015年度の授業評価アンケート調査実施対象授業科目の履修登録者数は3,273人（延べ人数、以下同じ）で、そのうち、春学期が1,683人、秋学期が1,590人であった。また、実際にアンケート調査を回答した者は2,988人（春学期1,544人、秋学期1,444人）であり、アンケート調査の回答率は91.29%（春学期91.74%、秋学期90.82%）であった。

各専攻別の内訳は次のとおりである。経営戦略専攻の授業科目の履修登録者数は2,166人（企業経営戦略コース1,682人および国際経営コース484人）で、そのうち、春学期は1,087人（企業経営戦略コース900人および国際経営コース187人）、秋学期は1,079人（企業経営戦略コース782人および国際経営コース297人）であった。アンケート調査の回答者数については、1,977人（企業経営戦略コース1,519人および国際経営コース458人）であった。そのうち、春学期は954人（企業経営戦略コース810人および国際経営コース179人）、秋学期は988人（企業経営戦略コース709人および国際経営コース279人）であった。回答率は91.3%（企業経営戦略コース90.3%および国際経営コース94.6%）である。そのうち、春学期は87.8%（企業経営戦略コース90.0%および国際経営コース95.7%）、秋学期は91.6%（企業経営戦略コース90.7%および国際経営コース93.9%）であった。

また、会計専門職専攻の授業科目の履修登録者数は1,107人（春学期596人、秋学期511人）で、アンケート調査の回答者数は1,011人（春学期555人、秋学期456人）あり、その回答率は91.3%（春学期93.1%、秋学期89.2%）であった。

### (3) 実施期間について

授業評価は、春学期、秋学期の授業終了時に実施してきた。2015年度の授業評価アンケートの実施期間だが、各クォーター開講科目については、原則として下記期間の7週目授業時に実施した。ただし、補講を実施した科目については、翌週の最終授業時に実施した。また、各集中講義開講科目については、下記期間の最終授業時に実施した。

第1クォーター開講科目：2015年5月21日（木）～5月27日（水）

第2クォーター開講科目：2015年7月16日（木）～7月22日（水）

夏集中講義開講科目：2015年7月30日（木）～8月23日（日）

第3クォーター開講科目：2015年11月2日（月）～11月11日（水）

第4クォーター開講科目：2016年1月13日（水）～1月19日（火）

冬集中講義開講科目：2016年1月27日（水）～2月28日（日）

### (4) アンケートの実施について

授業評価アンケートは、次の手順で実施した。

- ①授業評価アンケート時間は、最終授業時の授業終了前15分間とする。
- ②最終授業開始前に、授業評価アンケート用紙の入った封筒を、経営戦略研究科事務室にて担当者氏名と担当科目を確認のうえ受け取る。
- ③最終授業開始時に、「授業終了15分前に授業を終了し、授業評価アンケートを実施する」旨を受講者に伝える。
- ④授業終了15分前に、授業担当者は授業評価アンケート用紙を受講生に配布し、その場で直ちに回答するよう指示する。当該用紙の配布および回答の指示後、学生の自由な回答・記入を促進するため、授業担当者は教室から退室する。
- ⑤学生による授業評価である「授業に関するアンケート」は、質問項目数14～15で最高ポイントを5とし、それぞれ5段階評価のマークシートである。
- ⑥授業終了後、授業担当者は教室に戻って授業評価アンケート用紙を回収し、所定の封筒に入れて事務室に返却する。なお、受講者の自由な回答を促進するためにも、授業担当者は、授業評価アンケート用紙の回収時および回収後も当該アンケートは閲覧しない。
- ⑦「教員の担当科目自己評価表」については、事前に電子メールにて配布され、該当科目の成績報告書提出締切日までに経営戦略研究科事務室に提出（eメール可）した。
- ⑧「教員の担当科目自己評価表」は、次のような自由記述形式の3つの設問からなっている。

1. 「この科目を担当するにあたって最も力を入れたことは何ですか。」
2. 「この科目において、実施してよかった点と改善・工夫をした方がよい点は何ですか。クラスで実施した小テストやレポートの内容、発問に対する学生の答え、学生の教員への質問などから総合してお答えください。(1) 実施してよかった点、(2) 改善・工夫をした方がよい点」
3. 「この科目を担当するにあたって当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、ご自身の思っていた目標は達成されたと思いますか。」

#### (5) 集計

2015年度の授業評価アンケートについては、実施授業科目のクラスごとに集計を行った。この「授業評価アンケート集計結果」は、各授業クラスの履修登録者数、回答者数（学年別、所属専攻別、出身学部別の回答者数）、各設問の有効回答数、有効回答数の平均値および専攻平均値が示される。このうち、各設問の有効回答数の平均値と専攻平均値は、グラフによって視覚的にも明示している。

授業評価アンケートには、自由記述に関する設問が3問ある（「この授業で良かったところを具体的に書いてください」、「この授業で変えてほしいところがあれば、具体的に書いてください」および「この授業に関連して気づいたことがあれば書いてください」）。学生による授業評価アンケート実施にあたっての基本的スタンスとして踏襲してきたように、この自由記述の回答内容については公表対象とせず、授業内容および方法の改善のための資料と資する目的から、授業担当者に配付している。

### 3. 経営戦略専攻・企業経営戦略コース

#### A. 学生による授業評価アンケート

##### (1) 概観

以下では、2015年度の授業評価アンケートの結果を、全科目群、コア科目群、ベーシック科目群、アドバンスト科目群ごとに、同じ調査票が使用されている2009年度以降の結果と比較して分析していく。表1から表4は、全科目群、コア科目群、ベーシック科目群、アドバンスト科目群ごとに、回答の平均値（小数点第三位で四捨五入）を、春学期、秋学期、通年別に示したものである（年度の一番下にある「平均」は2009年度から2015年度の数字を平均したものである）。

2015年度の全科目群（表1）の評価であるが、春学期、秋学期、通年とも、学生からの評価の水準は、概ね高い水準を維持している。授業への満足度を問う設問13の「この授業

は全般的に満足のいくものでしたか。」のスコアは、通年で 4.45、春学期が 4.44、秋学期が 4.46 であり、十分に高い水準であると考ええる。設問の中で最も高いスコアだったのは、設問 3 の「教員は、担当科目の授業を行うのに十分な専門知識を持っていましたか」で、2015 年度も通年で 4.74 と高い水準を保っている。担当教員が授業を行うための専門知識に関しては、学生から高く評価されていると考えられる。他方、以前から継続して見られることであるが、学生自身の取り組みについての問いである設問 10 の「この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか」および設問 11 の「この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか」のスコアは、教員の授業内容や方法、授業の満足度についての設問のスコア（設問 1～9、設問 12～14）に比較して低い状況が続いており、授業外での課題設定を充実させる工夫が必要となろう。

表 1：全科目群（回答の平均値）

春学期

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.51	4.58	4.67	4.31	4.35	4.14	4.18	4.13	4.49	3.97	3.91	4.10	4.33	4.19
2010	4.59	4.59	4.73	4.45	4.48	4.23	4.27	4.28	4.57	4.03	3.88	4.15	4.39	4.24
2011	4.54	4.59	4.73	4.36	4.51	4.15	4.12	4.17	4.51	4.04	3.88	4.07	4.32	4.26
2012	4.38	4.47	4.67	4.30	4.42	4.10	4.19	4.12	4.47	3.97	3.73	4.01	4.23	4.32
2013	4.55	4.57	4.71	4.36	4.45	4.13	4.19	4.14	4.50	3.99	3.83	4.08	4.31	4.39
2014	4.57	4.57	4.74	4.42	4.48	4.23	4.32	4.22	4.57	4.06	3.87	4.13	4.40	4.46
2015	4.59	4.62	4.74	4.46	4.54	4.29	4.35	4.32	4.60	4.02	3.86	4.16	4.44	4.51
平均	4.53	4.57	4.71	4.38	4.46	4.18	4.23	4.20	4.53	4.01	3.85	4.10	4.35	4.34

秋学期

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.58	4.57	4.71	4.43	4.39	4.20	4.28	4.32	4.54	4.03	4.01	4.15	4.39	4.30
2010	4.66	4.64	4.71	4.51	4.52	4.30	4.38	4.34	4.58	4.14	4.04	4.24	4.40	4.34
2011	4.56	4.58	4.71	4.42	4.46	4.27	4.27	4.27	4.59	4.00	3.92	4.17	4.40	4.27
2012	4.50	4.58	4.68	4.38	4.43	4.16	4.21	4.22	4.49	4.02	3.87	4.06	4.27	4.35
2013	4.46	4.49	4.61	4.31	4.37	4.12	4.21	4.16	4.49	4.00	3.94	4.04	4.26	4.32

2014	4.61	4.63	4.74	4.49	4.54	4.33	4.37	4.29	4.60	4.13	4.00	4.20	4.43	4.52
2015	4.62	4.66	4.75	4.49	4.57	4.37	4.38	4.36	4.64	4.08	3.98	4.25	4.46	4.50
平均	4.57	4.59	4.70	4.43	4.47	4.25	4.30	4.28	4.56	4.06	3.97	4.16	4.37	4.37

### 通年

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.54	4.57	4.69	4.37	4.37	4.17	4.23	4.22	4.51	4.00	3.95	4.12	4.36	4.25
2010	4.62	4.61	4.72	4.48	4.49	4.26	4.32	4.31	4.58	4.08	3.95	4.19	4.40	4.29
2011	4.55	4.58	4.72	4.38	4.49	4.20	4.19	4.22	4.55	4.03	3.90	4.12	4.36	4.27
2012	4.44	4.52	4.68	4.34	4.42	4.13	4.20	4.17	4.48	4.00	3.80	4.03	4.25	4.34
2013	4.51	4.53	4.66	4.34	4.41	4.13	4.19	4.15	4.50	4.00	3.88	4.06	4.29	4.36
2014	4.59	4.60	4.74	4.45	4.51	4.28	4.34	4.26	4.58	4.09	3.92	4.16	4.41	4.49
2015	4.60	4.63	4.74	4.48	4.55	4.33	4.37	4.34	4.62	4.05	3.91	4.20	4.45	4.50
平均	4.55	4.58	4.71	4.41	4.46	4.21	4.26	4.24	4.55	4.04	3.90	4.13	4.36	4.36

次に、コア科目群(表2)、ベーシック科目群(表3)、アドバンスト科目群(表4)のデータを分析する。コア科目群は、通年の満足度が4.16であり、昨年より若干低下したものの、依然として高い水準を維持している。その他の設問を見ても、概ね昨年の水準を維持しており、現段階では大きな問題は認められない。

表2：コア科目群（回答の平均値）

春学期

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.40	4.48	4.69	4.15	4.17	3.98	4.06	3.92	4.43	3.84	3.78	3.89	4.16	4.03
2010	4.46	4.42	4.59	4.39	4.18	3.96	4.10	3.92	4.39	3.93	3.79	3.86	4.10	3.98
2011	4.41	4.39	4.64	4.10	4.07	3.72	3.86	3.73	4.24	3.85	3.50	3.56	3.85	3.90
2012	4.01	4.12	4.47	3.87	4.06	3.57	3.78	3.69	4.19	3.71	3.32	3.47	3.63	3.80
2013	4.50	4.45	4.71	4.29	4.32	3.87	3.97	3.98	4.37	3.90	3.62	3.93	4.16	4.27
2014	4.49	4.52	4.80	4.44	4.32	4.11	4.20	4.10	4.50	4.04	3.66	4.00	4.30	4.40
2015	4.48	4.46	4.75	4.28	4.39	4.03	4.20	4.15	4.43	3.76	3.55	3.86	4.25	4.36
平均	4.39	4.41	4.66	4.22	4.22	3.89	4.02	3.93	4.36	3.86	3.60	3.80	4.06	4.11

秋学期

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.55	4.48	4.69	4.38	4.03	3.82	4.03	4.13	4.39	3.95	3.86	3.86	4.16	4.03
2010	4.72	4.68	4.78	4.52	4.25	4.10	4.35	4.34	4.57	4.20	3.96	4.10	4.29	4.15
2011	4.49	4.41	4.64	4.38	4.15	4.03	4.09	4.07	4.46	4.01	3.90	3.99	4.19	4.08
2012	4.08	4.13	4.35	3.78	3.84	3.59	3.84	3.82	4.08	3.66	3.38	3.57	3.65	3.80
2013	4.27	4.24	4.53	4.15	4.17	3.99	4.22	4.19	4.28	3.89	3.72	3.96	4.10	4.23
2014	4.50	4.55	4.75	4.40	4.29	4.14	4.24	4.15	4.49	4.03	3.72	3.97	4.21	4.33
2015	4.50	4.53	4.76	4.31	4.39	4.17	4.33	4.30	4.51	3.94	3.64	4.06	4.28	4.33
平均	4.44	4.43	4.64	4.27	4.16	3.98	4.16	4.14	4.40	3.95	3.74	3.93	4.13	4.14

通年

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.45	4.48	4.69	4.24	4.12	3.92	4.05	4.00	4.42	3.89	3.81	3.88	4.16	4.03
2010	4.58	4.54	4.68	4.45	4.21	4.03	4.21	4.11	4.47	4.05	3.87	3.97	4.19	4.06
2011	4.45	4.40	4.64	4.25	4.11	3.89	3.98	3.91	4.36	3.94	3.71	3.79	4.03	4.00

2012	4.04	4.12	4.42	3.83	3.98	3.58	3.81	3.74	4.15	3.69	3.34	3.51	3.64	3.80
2013	4.43	4.39	4.66	4.25	4.27	3.91	4.05	4.05	4.35	3.89	3.65	3.94	4.14	4.26
2014	4.50	4.53	4.78	4.42	4.31	4.12	4.22	4.12	4.49	4.04	3.69	3.99	4.26	4.37
2015	4.49	4.49	4.76	4.29	4.39	4.09	4.25	4.21	4.46	3.83	3.59	3.94	4.26	4.35
平均	4.42	4.42	4.66	4.25	4.20	3.93	4.08	4.02	4.39	3.90	3.67	3.86	4.10	4.12

表3：ベーシック科目群（回答の平均値）

春学期

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.49	4.53	4.57	4.25	4.30	4.05	4.11	4.06	4.39	3.97	3.85	4.05	4.28	4.18
2010	4.61	4.60	4.78	4.45	4.54	4.22	4.23	4.28	4.60	4.04	3.82	4.17	4.41	4.21
2011	4.53	4.63	4.75	4.38	4.57	4.15	4.00	4.18	4.51	4.01	3.76	4.06	4.36	4.31
2012	4.38	4.55	4.72	4.38	4.47	4.16	4.18	4.16	4.45	3.98	3.65	4.08	4.32	4.41
2013	4.59	4.65	4.75	4.37	4.55	4.18	4.15	4.16	4.52	3.98	3.64	4.05	4.30	4.39
2014	4.55	4.51	4.68	4.31	4.47	4.10	4.27	4.12	4.49	3.99	3.73	4.00	4.30	4.37
2015	4.70	4.75	4.79	4.61	4.66	4.32	4.43	4.37	4.65	4.13	3.93	4.27	4.51	4.61
平均	4.55	4.60	4.72	4.39	4.51	4.17	4.20	4.19	4.52	4.01	3.77	4.10	4.35	4.35

秋学期

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.60	4.54	4.67	4.39	4.27	4.10	4.19	4.22	4.38	3.99	3.83	4.10	4.33	4.27
2010	4.65	4.67	4.75	4.50	4.53	4.29	4.32	4.29	4.51	4.04	3.79	4.27	4.41	4.35
2011	4.50	4.59	4.73	4.38	4.57	4.21	4.22	4.27	4.60	3.90	3.73	4.18	4.34	4.23
2012	4.61	4.67	4.77	4.52	4.46	4.23	4.24	4.24	4.51	4.11	3.81	4.15	4.35	4.48
2013	4.39	4.38	4.57	4.18	4.17	3.92	4.03	3.92	4.37	3.85	3.73	3.83	4.10	4.18
2014	4.57	4.57	4.68	4.41	4.52	4.29	4.28	4.26	4.54	4.05	3.90	4.16	4.36	4.43
2015	4.69	4.64	4.75	4.53	4.53	4.31	4.29	4.37	4.61	4.02	3.80	4.16	4.45	4.47
平均	4.57	4.58	4.70	4.42	4.44	4.19	4.22	4.22	4.50	3.99	3.80	4.12	4.33	4.34

通年

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.54	4.54	4.61	4.31	4.29	4.07	4.14	4.13	4.39	3.97	3.84	4.07	4.30	4.21
2010	4.63	4.63	4.77	4.47	4.54	4.24	4.26	4.28	4.57	4.04	3.81	4.20	4.41	4.26
2011	4.52	4.61	4.74	4.38	4.57	4.17	4.07	4.21	4.54	3.97	3.75	4.10	4.35	4.28
2012	4.48	4.60	4.74	4.44	4.47	4.19	4.21	4.19	4.48	4.04	3.72	4.11	4.33	4.44



2013	4.50	4.52	4.66	4.28	4.37	4.05	4.09	4.05	4.45	3.92	3.69	3.94	4.21	4.29
2014	4.56	4.54	4.68	4.36	4.50	4.20	4.27	4.20	4.52	4.02	3.82	4.08	4.33	4.40
2015	4.69	4.70	4.78	4.57	4.60	4.31	4.37	4.37	4.63	4.08	3.87	4.22	4.48	4.54
平均	4.56	4.59	4.71	4.40	4.48	4.18	4.20	4.20	4.51	4.01	3.79	4.10	4.34	4.35

表4：アドバンスト科目群（回答の平均値）

春学期

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.62	4.71	4.77	4.51	4.56	4.39	4.37	4.39	4.65	4.07	4.07	4.32	4.53	4.35
2010	4.64	4.67	4.74	4.48	4.56	4.39	4.42	4.48	4.64	4.07	4.01	4.27	4.54	4.42
2011	4.61	4.63	4.75	4.46	4.64	4.34	4.36	4.36	4.63	4.16	4.17	4.31	4.50	4.38
2012	4.60	4.63	4.77	4.51	4.60	4.39	4.45	4.35	4.67	4.12	4.07	4.28	4.52	4.58
2013	4.55	4.57	4.68	4.41	4.46	4.27	4.35	4.24	4.57	4.07	4.10	4.21	4.43	4.48
2014	4.60	4.62	4.74	4.46	4.56	4.35	4.40	4.33	4.65	4.11	4.02	4.25	4.49	4.54
2015	4.58	4.63	4.71	4.48	4.55	4.41	4.39	4.38	4.66	4.09	3.97	4.26	4.51	4.54
平均	4.60	4.64	4.74	4.47	4.56	4.36	4.39	4.36	4.64	4.10	4.06	4.27	4.50	4.47

秋学期

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.57	4.61	4.74	4.47	4.58	4.38	4.42	4.45	4.68	4.09	4.17	4.28	4.51	4.41
2010	4.64	4.61	4.67	4.50	4.61	4.38	4.42	4.36	4.62	4.18	4.20	4.28	4.43	4.40
2011	4.64	4.67	4.74	4.46	4.58	4.44	4.40	4.39	4.66	4.06	4.04	4.27	4.55	4.40
2012	4.58	4.67	4.74	4.50	4.61	4.31	4.31	4.36	4.61	4.10	4.06	4.18	4.44	4.47
2013	4.56	4.62	4.66	4.43	4.55	4.28	4.31	4.30	4.62	4.12	4.12	4.19	4.40	4.43
2014	4.68	4.71	4.79	4.59	4.65	4.43	4.49	4.37	4.69	4.22	4.18	4.31	4.58	4.66
2015	4.63	4.71	4.74	4.54	4.65	4.47	4.44	4.37	4.69	4.16	4.17	4.35	4.53	4.57
平均	4.61	4.66	4.73	4.50	4.60	4.38	4.40	4.37	4.65	4.13	4.13	4.27	4.49	4.48

通年

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.59	4.65	4.75	4.48	4.57	4.39	4.40	4.42	4.67	4.08	4.13	4.29	4.52	4.38
2010	4.64	4.63	4.70	4.49	4.59	4.39	4.42	4.42	4.63	4.13	4.11	4.28	4.48	4.41
2011	4.62	4.65	4.75	4.46	4.62	4.39	4.38	4.38	4.65	4.12	4.11	4.29	4.53	4.39
2012	4.59	4.65	4.75	4.51	4.61	4.34	4.37	4.35	4.64	4.11	4.07	4.22	4.47	4.52

2013	4.56	4.60	4.67	4.42	4.51	4.28	4.33	4.27	4.60	4.10	4.11	4.20	4.41	4.45
2014	4.64	4.66	4.76	4.52	4.60	4.38	4.43	4.35	4.67	4.16	4.09	4.27	4.53	4.59
2015	4.61	4.67	4.72	4.51	4.60	4.44	4.41	4.38	4.68	4.13	4.07	4.31	4.52	4.55
平均	4.61	4.64	4.73	4.48	4.59	4.37	4.39	4.37	4.65	4.12	4.10	4.27	4.49	4.47

## (2) 科目別学生満足度

表5は、コア科目、ベーシック科目、アドバンスト科目の科目群別に、設問12の「この授業を受けることで分析能力や批判力がついたと思いますか」、設問13の「この授業は一般的に満足いくものでしたか」、設問14の「この授業は今後の学習にとって有意義なものでしたか」の科目ごとの平均（小数第3位で四捨五入）を示したものである。各科目の授業の平均点については、履修人数、受講した学生など、様々な事情も絡んでいる。個々の教員がそれぞれに適切に分析し、今後の授業に生かしていくことが求められるであろう。

表5：科目ごとの回答の平均値

### 春学期・コア科目

科目名	クラス	履修者数	設問12	設問13	設問14
企業倫理	1	37	3.67	4.11	4.28
経営学	1	35	4.30	4.52	4.64
経営学	2	13	4.23	4.31	4.54
会計学	1	35	3.82	4.38	4.56
経済学	1	29	3.00	3.00	3.08
統計学	1	14	4.31	4.62	4.62
英語コミュニケーション	1	13	4.25	4.67	4.67
英語コミュニケーション	2	16	3.63	4.63	4.63

### 秋学期・コア科目

科目名	クラス	履修者数	設問12	設問13	設問14
企業倫理	2	32	3.77	3.77	3.90
経営学	3	18	4.25	4.69	4.75
会計学	2	16	4.27	4.47	4.33
経済学	2	9	3.44	3.78	4.11
統計学	3	36	4.20	4.29	4.26

英語コミュニケーション	3	23	4.20	4.60	4.60
英語コミュニケーション	4	17	4.07	4.56	4.69

春学期・ベーシック科目

科目名	クラス	履修者数	設問 12	設問 13	設問 14
経営戦略	1	16	4.63	4.63	4.69
人的資源管理	1	17	4.08	4.54	4.62
マーケティング・マネジメント	1	36	4.30	4.73	4.76
ファイナンス	1	15	4.29	4.43	4.64
企業ファイナンス	1	6	4.80	4.80	4.80
管理会計		10	4.00	3.80	4.10
財務諸表分析		22	4.50	4.68	4.68
テクノロジー・マネジメント	1	17	4.53	4.94	5.00
情報システム		3	4.33	5.00	5.00
ベンチャービジネス	1	21	4.05	4.35	4.53
公共経営論	1	12	4.33	4.67	4.67
行動科学		16	4.00	4.13	4.31
会社法		14	3.62	3.46	3.77
上級英語コミュニケーション	1	4	4.50	5.00	5.00
イノベティブ・シンキング		16	4.31	4.85	4.85

秋学期・ベーシック科目

科目名	クラス	履修者数	設問 12	設問 13	設問 14
経営戦略	2	20	4.06	4.22	4.33
人的資源管理	2	9	4.00	4.14	4.50
マーケティング・マネジメント	2	14	3.54	4.38	4.00
ファイナンス	2	25	4.52	4.56	4.68
企業ファイナンス	2	16	4.47	4.60	4.80
テクノロジー・マネジメント	2	25	4.36	4.68	4.68
生産システム		8	3.29	3.14	3.43
ベンチャービジネス	2	14	3.64	4.21	4.14
公共経営論	2	10	4.44	4.78	4.67

統計分析論		14	4.67	4.67	4.67
ゲーム理論		19	4.12	4.65	4.65
グローバル・エコノミー		8	3.50	4.17	3.83
上級英語コミュニケーション	2	2	5.00	5.00	5.00

### 春学期・アドバンスト科目

科目名	クラス	履修者数	設問 12	設問 13	設問 14
企業経営史		6	4.17	4.67	4.67
組織管理		26	4.29	4.29	4.57
国際経営		10	4.30	4.50	4.60
事業システム戦略論		20	4.65	4.85	4.90
組織管理事例研究		11	4.73	5.00	4.91
経営戦略事例研究	1	15	4.54	4.92	4.85
Business Negotiation (BS)		3	5.00	5.00	5.00
マーケティング・コミュニケーション	1	15	4.42	4.83	4.83
マーケティング戦略		15	4.13	4.47	4.40
消費者行動		18	4.44	4.69	4.75
金融工学		11	4.60	5.00	4.80
リスクマネジメント		4	4.25	4.75	4.75
Special Topics in Finance (企業)		3	3.67	4.67	4.67
製品開発事例研究		16	4.00	4.00	4.21
標準化経営戦略		43	3.61	3.56	3.77
知的財産戦略		8	4.63	4.75	4.75
Product Innovation (BS)		10	3.89	4.44	4.22
システム・シンキング		33	4.65	4.81	4.84
アントレプレナーシップ		12	4.10	4.45	4.36
ベンチャービジネス事例研究		14	4.58	4.64	4.67
企業倫理事例研究		21	3.12	2.94	3.24
研究開発型ベンチャー創成		25	4.30	4.70	4.50
企業経営戦略特論A		18	3.94	4.44	4.63
企業経営戦略特論D		10	4.63	5.00	4.88
企業経営戦略特論G		15	4.07	4.47	4.40

課題研究基礎	2	5	4.40	4.80	4.80
課題研究基礎	3	1	5.00	5.00	5.00
課題研究基礎	7	14	4.31	4.54	4.77
課題研究基礎	8	2	4.50	4.50	5.00
課題研究	3	2	5.00	5.00	5.00
課題研究	5	1	5.00	5.00	5.00
課題研究	7	1	5.00	5.00	5.00
課題研究	9	1	5.00	5.00	5.00
課題研究	11	3	4.33	4.67	4.67
課題研究	13	2	5.00	5.00	5.00
課題研究	15	2	4.50	4.50	4.50
課題研究	17	1	5.00	5.00	5.00
官民パートナーシップ論		12	4.14	4.71	4.71
公共経営事例研究	1	7	4.00	4.57	4.43
公共経営事例研究	2	6	4.60	4.80	4.60
自治体会計		4	4.00	5.00	4.00
自治体財務管理 (BS)	1	3	5.00	5.00	5.00
病院経営	1	3	4.67	5.00	5.00
病院組織管理		7	4.29	4.86	4.71
大学経営	1	3	5.00	5.00	5.00
大学財務管理 (BS)		3	5.00	5.00	5.00

#### 秋学期・アドバンスト科目

科目名	クラス	履修者数	設問 12	設問 13	設問 14
企業家論		12	4.17	4.42	4.58
人材マネジメント		7	5.00	5.00	5.00
NPOマネジメント		18	4.36	4.91	4.91
経営戦略事例研究	2	29	4.46	4.83	4.79
ブランド・マネジメント		21	4.42	4.79	4.79
マーケティング・コミュニケーション	2	22	4.45	4.90	4.80
営業戦略		39	3.29	3.00	3.12
ロジスティクス		6	3.75	4.25	4.75

国際マーケティング		4	4.50	5.00	5.00
マーケティング・リサーチ		16	4.62	4.54	4.54
Special Topics in Marketing		4	4.00	4.50	4.50
証券投資		11	4.50	4.90	4.80
金融商品		13	4.08	4.25	4.50
行動ファイナンス		6	4.50	4.50	4.50
イノベーション経営		29	4.14	4.21	4.31
製品開発		24	4.35	4.48	4.52
データマイニング		4	4.33	5.00	5.00
システム・デザイン演習		24	4.70	4.96	4.87
新規事業計画		13	4.69	4.77	4.92
中小企業経営革新		32	4.30	4.74	4.67
知的財産権法		5	4.67	5.00	5.00
課題研究基礎	1	1	5.00	5.00	5.00
課題研究基礎	4	11	4.55	4.45	4.64
課題研究基礎	5	16	4.53	4.67	4.73
課題研究基礎	6	3	4.67	5.00	5.00
課題研究	2	6	4.67	4.83	4.67
課題研究	4	2	5.00	5.00	5.00
課題研究	6	2	4.50	5.00	5.00
課題研究	8	2	5.00	5.00	5.00
課題研究	10	3	5.00	5.00	5.00
課題研究	12	6	4.83	4.83	4.83
課題研究	14	4	4.75	5.00	5.00
課題研究	16	5	4.50	4.50	4.50
課題研究	18	8	4.88	4.63	4.88
課題研究	20	2	5.00	5.00	5.00
課題研究	21	5	5.00	5.00	5.00
地域経営事例研究		7	3.67	4.00	4.33
公共ファイナンス		2	4.00	5.00	5.00
自治体財務管理事例研究		4	4.50	4.50	4.50
病院財務管理		6	3.60	3.80	4.00

病院経営事例研究		6	4.67	5.00	5.00
医療経済学		5	5.00	5.00	4.75
大学経営	2	2	5.00	5.00	5.00

## B. 教員による担当科目自己評価

教員は、各授業終了後に「教員担当科目自己評価表」に次の3点の自己評価を記載することになっている。

- ①この科目を担当するにあたって最も力を入れたことは何ですか。
- ②この科目において実施してよかった点と改善・工夫をしたほうが良い点は何ですか。
- ③この科目を担当するにあたって当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、ご自身の思っていた目標は達成されたと思いますか。

以下では、コア、ベーシック、アドバンスト、課題研究の4つの科目群に分けて、各質問項目について分析・考察する。教員の様々な工夫や努力を教員間で共有して授業改善につなげられるためにもできるだけコメント（「 」内）を多く掲載した。

### (1) コア科目群：

①「最も力を入れたこと」としては、「基礎的な理論や概念についての理解」「基礎的な理論や概念についての理解をしてもらい、関連するベーシックやアドバンスト科目を取得する上でのベースとしての知識を身に付けてもらうこと」など基本的な理論・フレームワークを習得することに力点が置かれ、さらにコア科目の履修後に続くベーシック・アドバンスト科目につながることを念頭に置かれての授業がなされていた。そして、「データを素材にして、ビジネスの本質を把握できることが大切であることを強調した」「企業経営を構想するベーシックな思考力の養成に力点を置いた」「現代企業の抱えている問題を〇〇の観点から認識させること」など、ビジネスに直結して応用させることが意識されていた。

②「実施してよかった点」については、今期も、小テストやレポート、演習問題や実習による理解度の向上と、グループ討議やグループ研究発表などの学生間の対話および学生と教員間の双方向授業を挙げるものが多かった。そして、上記「最も力を入れたこと」に記したように、ビジネスに直結して応用させる工夫が実施してよかったこととして挙げられていた。例えば「授業で講義した概念やモデルを使って自社のことを考えてもらうエクセサイズ。自社に落とし込んだものを教室で発表してもらうことで、さらに深いディスカッションができた」「アンケートデータをグループ学習で解析した」「自社や馴染みの深い組織に実際に適用してみる思考実験に重点を置いた問題設計に努めた」である。

「改善・工夫をしたほうが良い点」については、履修者数が多い科目が多いコア科目なら



ではの「受講生のバックグラウンドの違いや理解度のバラつきの大きさ」や、「ケース討議において、教員・学生間の討議が中心で、学生間の討議は限定的であった。バックグラウンドが異なる多様な学生が参加するケース討議の利点を活かすためには、さらなる学生間討議の促進が望ましいものと考えられる」というように、学生間の討議を挙げた教員が複数いた。

また、「復習の量が少ないように思える。復習をいかに促進するかを工夫する必要がある」を挙げた教員もいた。

昨年、必修科目の英語で求められていた「クラスごとの履修者数の平準化」は今期には改善されていた。

③「目標が達成されたか」については、「グループ発表は、毎回、非常に質が高かった」「ケース討議への参画率もおおむね高く、各学生が非常に活発に意見を述べ、ケース素材、および授業内容への十分な理解を示した」など授業での手応えから「おおむね達成された」とする教員がいた一方で、授業内容のバランスが難しいといったコメントもあった。春学期と秋学期の各1回担当している教員は秋学期に改善する工夫が見られた。

## (2) ベーシック科目群

①「最も力を入れたこと」について、コア科目にはない新しい専門分野の科目では、コア科目群と同様に、「基礎的な知識を体系だてる」など基礎的な概念や理論の理解を挙げる教員が多く、さらに「基本的な概念や理論フレームワークをケースを使って応用できることにも力点を置いた」などビジネスに応用できることが意識されていた。それ以外の科目ではコア科目の発展的な内容を意識したものが多く、「最近の事例を用いて、どう〇〇理論を用いた分析ができるかをデモしながら、使える知識を身につけてもらう点」など、より実践に結び付けようとされていた。

②「実施してよかった点」については、まず、双方向授業の工夫が挙げられていた。「授業中に小グループでケースの課題について短時間の意見交換をする機会を設けたこと」「グループ研究」「積極的なグループ討議」「事例問題を取り上げたときは、受講生からかなり積極的な発言があった。また、授業後にも、そうした事例に関連する質問が時々あった」「ケースについて課したレポートのうち優れているレポート、あるいは何等か工夫が施されているレポートを毎回次週に紹介した」などがある。

上記①の「基礎的な概念や理論の理解」に関連して、「講義の内容をより基礎的なことに絞り込んだ」「毎回授業の前半(毎回のテーマに沿ったレクチャー)と後半(ケース・メソッド・ティーチングでその基礎知識を応用して身に付ける)の連動」「実務での経験をできるだけ紹介した」といった基礎知識を身近に理解することとそこからの応用を強化する工夫が

あった。

また、授業以外での自助努力を促す工夫としては「教科書の要約をレポートとして提出してもらい、講義内容の理解を一層確実にした」「毎週事前学習してもらった資料を配布し、課題を提示して、レポート提出してもらった」など、授業前の学習を促す工夫が挙げられていた。

「改善・工夫をしたほうが良い点」としては、上記に述べたように双方向授業の工夫がなされているものの、「質疑応答ではなく、受講生同士のディスカッションをもう少し増やしてもよいかと思う」「早いうちに受講者のバックグラウンドを把握し、それを活かした発言を引き出すなどしたほうが、クラスのディスカッションがさらに活発になり、講義の双方向性が一層高まると思われる」とより双方向授業を目指そうとする姿勢が見られた。

また、数字を扱う授業では、「統計パッケージの利用に関してはどうしても利用能力に差が出てしまうので、うまく使えない受講者に対する補講を考えたほうがよいだろう」「数量的な表現が苦手な学生が多く、そこをもっと丁寧に解説すべきだと思われるが、理解力にかなり個人差が大きく悩ましい。コアとして、計量分析的な講義科目の設置も一法か」など受講者の理解度のばらつきに対する対応が課題である。

③「目標が達成されたか」については、「達成された」「おおむね達成された」という意見が多かったが、必ずしも学生の満足度が非常に高いとは限らないので、個々の教員の改善は今後も重ねられるべきだろう。

### (3) アドバンスト科目群：

①「最も力を入れたこと」に関しては、アドバンスト科目群で発展的な科目という性質から、その内容は多岐にわたり、「自社のビジネスを分析できる能力」、「各自にとっての実践知となること」、「全般で現在進行している大きな変化を実感してもらうこと」など、理論を踏まえた応用、実務での応用、理論と実際を相互に関連させる、他の科目とのつながりをつけるなどが挙げられていた。

②「実施してよかった点」については、グループワーク、ケース・スタディ、教員作成のケースを用いた講義・ディスカッション、毎回の小テストとその解説、毎回課すレポートとそのうちの優れたレポートの紹介、グループ研究発表、授業内容を再度理解できるような宿題を課す、など、ベーシック科目でも見られた工夫のほか、最新事例の紹介、受講生によるプロジェクト報告、自社の分析を課すこと、ゲストスピーカーを招く、学んだことを自らの職場で試してレポートを課すなどが挙げられていた。

「改善・工夫をしたほうが良い点」について、「求めても受講生からあまり質問が出ない。出席して座っているだけの受講生が少なくないようなので、もう少し双方向授業を心がけ

る必要があるように思っている」「仕事を持つ学生にとっては事前学習に時間を割くことはむずかしいが、教材で取り上げる事例を学生の関心の強いものにして、また、事前レポートの設問を工夫して、学生の勉学の動機づけを強めたい。」と学生の積極性を引き出す点が挙げられていた。この点については、上記「実施してよかった点」で他の教員が挙げた点を参考にできよう。

そして、「教えたいことが多すぎて、全体に時間が不足気味。とくに討議時間が不足した。授業を総花的にするより、〇〇に軸足を置くなどして、メリハリをつけることも一案。」「全体に時間が不足気味であり、宿題等を検討したい」「講義と演習の割合についてももう少し講義を増やしてもよいかと思う」「古くなったケースの更新やリバイス」など、常に改善のための試行錯誤をする姿が見られた。

③「目標が達成されたか」については、コア・ベーシック科目と異なり、具体的に目標に対する達成度を記載して、手ごたえを得ながらも、②の改善点をはじめとして、その分野に即した改善も挙げている教員が多かった。

#### (4) 課題研究科目群：

①「最も力を入れたこと」について、課題研究基礎では「課題研究論文の進め方を理解させること」が多かった。課題研究では、「身近な課題について新たな知見を自ら生み出し、研究の面白さ、醍醐味を体感すること。オリジナリティの発揮。」「実践的な問題解決の能力の向上を図る」「学会発表に耐えうる論文を書くこと」「実践的にも、理論的にも実りのある成果が出るようにした点」のほか、「リサーチクエスチョンを明確にさせ、できるだけ早くヒアリング、アンケート調査を始めさせ、十分なデータを収集させることを心がけた」「各人に応じた指導」というように課題研究のスムーズな進め方を意識したものもあった。

②「実施してよかった点」について、課題研究基礎では「ミニ課題研究論文」として、論文形式のレポートの提出を課したという教員が多かった。他には「過去の学生の発表や論文の例の紹介」、「図書館の資料やインターネット検索の利用」「グループ研究」「グループディスカッションの時間を設け、その話し合いに加わることでアドバイスをを行った。」「量的調査の分析の際に SPSS を用いたことにより、苦手意識から統計分析を避けてきた人に量的調査と統計分析の必要性を感じていただけたと思う。」などの工夫がされていた。

課題研究では、「ゼミが始まる半年前から定期的に指導を実施した点」「春(夏)休み中に授業を行ったこと。」「授業開始前から課題研究に役立つような書籍を読ませ、課題研究開始前にその要約を提出させた」など、早期から課題研究論文作成の準備をさせたことを挙げた教員が複数いた。「論文作成能力の極めて低い履修生のために、サポーターをつけたこと」「毎回、「本日の conclusion」を一番先に発表してもらい、その後の発表は、基本的にそれ

をサポートする情報に絞ってプレゼンしてもらった」「随時メール等で相談したこと」「日帰りではあったが合宿形式の研究会と、近隣の公共施設を借りての研究会の開催など、環境を変えた講義の進め方を行うことで、個々人の研究と連帯感の双方の向上が可能になった」など、学生がレベル高い論文を書くためのモチベーションを上げる工夫が多くなされていた。

「改善・工夫をしたほうが良い点」について、課題研究基礎では、「集中講義であったので日程の調整」「内容に比較し、相対的に時間が不足気味。」「時間的制約で扱いたい統計的手法のすべてを紹介することができなかった」など時間的なものが挙げられていた。

課題研究では、「効率的な研究作業の推進（＝テーマの明確化・絞込みまで時間がかかりすぎている点）」「受講生の理解度と研究時間に応じた指導に改善が必要」など論文完成までの時間管理が挙げられていた。「人数が非常に少ない場合は、適宜、卒業生などテーマの似ている人に、参加していただくなどの工夫をすべきかと感じた」「ゲストコメンテーターを増やしたほうがよかったように思う」など気づきを得るための工夫が挙げられていた。

③「目標が達成されたか」については、課題研究基礎と課題研究ともに「おおむね達成された」とする教員が多かったが、今後も改善の余地があれば改善することが求められよう。

「今年は〇〇をしてみた」など毎年工夫を重ねている教員は多い。今後も教員間で改善点や工夫点を共有して、また、個々の学生による授業評価アンケートの結果に基づいて改善を重ねる努力をしていきたいものである。

## 経営戦略専攻・国際経営コース

### A. 学生による授業評価アンケート

以下に、国際経営コースにおける 2015 年度の授業評価アンケートの結果を春・秋学期別、および通年で過去 2 年度の結果と比較して分析する。ただし、質問項目 14「授業内容の就職後の実用性（Course content were highly relevant and useful for your future career）」は国際経営コースで独自に追加している質問項目である。

表 1：2015 年度授業評価結果（2013 年、2014 年度との比較、各回答者の平均値を小数点第二位で四捨五入）

全科目群

学期	年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
春学期	2013	4.67	4.73	4.78	4.46	4.69	4.59	4.60	4.48	4.64	4.46	4.45	4.55	4.53	4.56
	2014	4.77	4.71	4.72	4.47	4.67	4.59	4.48	4.54	4.69	4.53	4.46	4.55	4.57	4.67
	2015	<b>4.74</b>	<b>4.70</b>	<b>4.74</b>	<b>4.52</b>	<b>4.65</b>	<b>4.73</b>	<b>4.62</b>	<b>4.55</b>	<b>4.72</b>	<b>4.50</b>	<b>4.41</b>	<b>4.55</b>	<b>4.69</b>	<b>4.68</b>
秋学期	2013	4.73	4.69	4.76	4.30	4.55	4.61	4.56	4.56	4.65	4.50	4.56	4.51	4.53	4.64
	2014	4.67	4.61	4.63	4.39	4.60	4.54	4.37	4.49	4.62	4.38	4.42	4.46	4.58	4.57
	2015	<b>4.57</b>	<b>4.67</b>	<b>4.73</b>	<b>4.51</b>	<b>4.69</b>	<b>4.62</b>	<b>4.46</b>	<b>4.37</b>	<b>4.59</b>	<b>4.43</b>	<b>4.37</b>	<b>4.54</b>	<b>4.55</b>	<b>4.61</b>
通年	2013	4.70	4.71	4.77	4.38	4.62	4.60	4.58	4.52	4.65	4.48	4.50	4.53	4.53	4.60
	2014	4.72	4.65	4.67	4.43	4.63	4.56	4.42	4.51	4.65	4.45	4.44	4.50	4.57	4.62
	2015	<b>4.64</b>	<b>4.68</b>	<b>4.74</b>	<b>4.53</b>	<b>4.68</b>	<b>4.66</b>	<b>4.53</b>	<b>4.45</b>	<b>4.64</b>	<b>4.45</b>	<b>4.38</b>	<b>4.53</b>	<b>4.59</b>	<b>4.62</b>

まず通年での学生による授業全体評価の水準自体は概ね高い評価で推移している。2015年度の数値は2014年に比べてほぼ同程度で推移している。設問14のうち半分の7項目で2015年度は2014年度を上回り、それ以外の項目で若干下回った。しかし、通年で見ると、設問10の4.45を除いてほぼすべての質問項目の平均が4.5点を上回る高い数字であり、「Strongly Agree」、「Agree」の中間の値であるがどちらかというと「Strongly Agree」に近い数字となっている。つまり、質問項目のすべてが4.0を超えているという「高い評価」結果を得ている。さらに、多くの質問項目の平均点が4.5を上回る高水準であることを評価したい。

次に、過去2年との比較をしてみると、一昨年2014年度は平均すると2013年度レベルと同じであったが、2015年度は多くの項目で2014年度を上回った。背景には、継続的な教員のFDの努力が伺えるが、学生数が少人数のクラスのため丁寧に学生と教授間の応答型の教育手法が維持され教える内容が学生に十分に伝わるクラスが多かったことで学生満足度が向上したと考える。また、近年の学生の国籍が多様化していること、多様な意見が集う討論形式の授業が多いので学生のクラスへの貢献と理解度の向上が工夫されているので満足度が高いとも考えられる。今後の評価の傾向を注視すべきであるが、この高い満足レベルを維持したいと考える。

個々の質問項目の評価点を詳細に分析すると、高い評価の3つの項目を見てみると、質問項目3「The instructor's knowledge level was high enough to teach the course」においては4.74、設問5「The instructor encouraged students comments and discussion」が4.68、設問2「The instructor was well prepared for the classes」が4.68であった。昨年一番高い評価であった設問1「The course met the objectives and topics described in the syllabus」が4.62と4.72から若干評価を下げた。トップ3から伺えるのは、教員に対する学生の高いものである。教員全体が継続的な教育の向上活動（FD）を行った結果の反映であると考えられる。

次に高い評価が見られるのは、例えば質問項目 6「Instructor's interest in whether students learned was high」が 4.66、質問 9「The instructor answered students' questions clearly and sufficiently」がともに 4.64、設問 14「Course content were highly relevant and useful for your future career」が 4.62 などであった。

一方、比較的低い評価であったのは、質問 11「You made additional efforts for the course such as searching related materials for course topics」が 4.38、質問 10「You prepared and reviewed thoroughly for the classes」が 4.45、質問 8「The course was well prepared in terms of contents and time allocation」4.45、質問 7「The amount of work assigned was reasonable」の 4.53、質問 4「The prescribed textbooks and teaching materials were helpful for your learning」が 4.53 であった。

質問 10、質問 11 に関しては 2013 年度もそれぞれ 4.44、4.38 と比較的 low 評価であったが、コースに対する学生の姿勢に若干問題があるのかなと思わせる。質問 8 が昨年より評価を下げた。教員のコース時間・量の配分について少し問題があったのかもしれない。上記質問 7 に関しては、宿題が多すぎるのかそれとも少なすぎるのかわからない。おそらくコースによってばらつきが多いのであろう。質問 4 の結果は、2013 年、2014 年に比べて少し向上している傾向が見られるので、学生がテキストを購入し、事前に準備してきている傾向にあるのではないだろうか。

これらの分析結果から伺えるのは、学生の勉学意欲が昨年度、一昨年度より高くなったが、全体では比較的 low レベルである点である。昨年度も指摘したが、学生の勉学意欲の低下が授業の内容が難しく感じる、または勉強時間が足りなかったという評価がこのような結果になったのではないだろうか。また、教員の時間・量の配分にこれから注意を払うべきであろう。

表 2：2015 年度授業評価コア科目群結果（2013 年、2014 年度との比較、各回答者の平均値を小数点第二位で四捨五入）

コア科目群															
学期	年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
春学期	2013	4.76	4.81	4.82	4.70	4.74	4.68	4.88	4.72	4.70	4.69	4.55	4.72	4.71	4.73
	2014	4.60	4.61	4.52	4.38	4.52	4.42	4.27	4.46	4.51	4.25	4.11	4.34	4.34	4.41
	2015	<b>4.75</b>	<b>4.75</b>	<b>4.76</b>	<b>4.52</b>	<b>4.69</b>	<b>4.61</b>	<b>4.56</b>	<b>4.60</b>	<b>4.57</b>	<b>4.47</b>	<b>4.43</b>	<b>4.42</b>	<b>4.54</b>	<b>4.68</b>
秋学期	2013	4.60	4.55	4.53	3.84	4.27	4.36	4.55	4.50	4.42	4.17	4.22	4.20	4.09	4.42
	2014	4.65	4.55	4.66	4.57	4.69	4.65	4.45	4.69	4.60	4.47	4.55	4.50	4.60	4.65
	2015	<b>4.31</b>	<b>4.38</b>	<b>4.52</b>	<b>4.33</b>	<b>4.45</b>	<b>4.30</b>	<b>4.27</b>	<b>4.25</b>	<b>4.31</b>	<b>4.00</b>	<b>3.95</b>	<b>4.11</b>	<b>4.28</b>	<b>4.34</b>
通年	2013	4.68	4.68	4.68	4.27	4.51	4.52	4.72	4.61	4.56	4.43	4.39	4.46	4.40	4.58
	2014	4.63	4.58	4.59	4.48	4.60	4.53	4.36	4.58	4.55	4.36	4.33	4.42	4.47	4.53
	2015	<b>4.53</b>	<b>4.57</b>	<b>4.64</b>	<b>4.43</b>	<b>4.57</b>	<b>4.45</b>	<b>4.42</b>	<b>4.42</b>	<b>4.44</b>	<b>4.24</b>	<b>4.19</b>	<b>4.27</b>	<b>4.41</b>	<b>4.51</b>

表 3：2015 年度授業評価ベーシック科目群結果（2013 年、2014 年度との比較、各回答者の平均値を小数点第二位で四捨五入）

ベーシック科目群

学期	年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
春学期	2013	4.82	4.84	4.83	4.62	4.88	4.79	4.63	4.57	4.77	4.66	4.65	4.61	4.68	4.79
	2014	4.70	4.64	4.61	4.27	4.45	4.31	3.81	4.33	4.59	4.19	4.09	4.41	4.37	4.60
	<b>2015</b>	<b>4.64</b>	<b>4.73</b>	<b>4.70</b>	<b>4.32</b>	<b>4.60</b>	<b>4.71</b>	<b>4.42</b>	<b>4.29</b>	<b>4.70</b>	<b>4.51</b>	<b>4.47</b>	<b>4.70</b>	<b>4.77</b>	<b>4.81</b>
秋学期	2013	4.76	4.74	4.84	4.31	4.56	4.70	4.45	4.56	4.70	4.50	4.65	4.49	4.59	4.68
	2014	4.65	4.66	4.63	4.54	4.67	4.63	4.45	4.59	4.65	4.32	4.42	4.48	4.60	4.61
	<b>2015</b>	<b>4.55</b>	<b>4.63</b>	<b>4.71</b>	<b>4.43</b>	<b>4.67</b>	<b>4.49</b>	<b>4.35</b>	<b>4.30</b>	<b>4.47</b>	<b>4.35</b>	<b>4.29</b>	<b>4.41</b>	<b>4.45</b>	<b>4.57</b>
通年	2013	4.79	4.79	4.83	4.46	4.71	4.74	4.54	4.57	4.73	4.58	4.65	4.55	4.63	4.73
	2014	4.67	4.65	4.62	4.44	4.58	4.50	4.20	4.49	4.63	4.27	4.29	4.45	4.51	4.60
	<b>2015</b>	<b>4.58</b>	<b>4.66</b>	<b>4.70</b>	<b>4.39</b>	<b>4.65</b>	<b>4.56</b>	<b>4.37</b>	<b>4.30</b>	<b>4.54</b>	<b>4.40</b>	<b>4.34</b>	<b>4.50</b>	<b>4.55</b>	<b>4.64</b>

表 4：2015 年度授業評価アドバンス科目群結果（2013 年、2014 年度との比較、各回答者の平均値を小数点第二位で四捨五入）

アドバンス科目群															
学期	年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
春学期	2013	4.58	4.67	4.75	4.33	4.60	4.48	4.51	4.37	4.57	4.30	4.33	4.48	4.43	4.42
	2014	4.84	4.76	4.81	4.56	4.78	4.73	4.76	4.63	4.77	4.71	4.69	4.65	4.70	4.78
	<b>2015</b>	<b>4.77</b>	<b>4.67</b>	<b>4.75</b>	<b>4.58</b>	<b>4.65</b>	<b>4.77</b>	<b>4.70</b>	<b>4.61</b>	<b>4.78</b>	<b>4.51</b>	<b>4.39</b>	<b>4.54</b>	<b>4.71</b>	<b>4.64</b>
秋学期	2013	4.76	4.72	4.80	4.45	4.64	4.65	4.61	4.59	4.71	4.61	4.64	4.62	4.64	4.69
	2014	4.68	4.58	4.62	4.28	4.60	4.55	4.53	4.42	4.63	4.48	4.53	4.45	4.65	4.50
	<b>2015</b>	<b>4.63</b>	<b>4.76</b>	<b>4.82</b>	<b>4.65</b>	<b>4.81</b>	<b>4.76</b>	<b>4.58</b>	<b>4.46</b>	<b>4.71</b>	<b>4.58</b>	<b>4.52</b>	<b>4.70</b>	<b>4.63</b>	<b>4.66</b>
通年	2013	4.67	4.69	4.77	4.39	4.62	4.56	4.56	4.47	4.63	4.45	4.48	4.54	4.53	4.55
	2014	4.77	4.68	4.73	4.44	4.70	4.65	4.66	4.54	4.71	4.62	4.63	4.56	4.68	4.65
	<b>2015</b>	<b>4.69</b>	<b>4.72</b>	<b>4.79</b>	<b>4.62</b>	<b>4.74</b>	<b>4.77</b>	<b>4.63</b>	<b>4.53</b>	<b>4.74</b>	<b>4.55</b>	<b>4.46</b>	<b>4.63</b>	<b>4.67</b>	<b>4.65</b>

また、表 2 から表 4 はコア、ベーシック、アドバンス科目群による同評価結果である。全体評価との比較で考えると、傾向としては前述した内容と同じ傾向が見受けられる。つまり、過去 2 年との比較をしてみると 2014 年度よりも全体的に評価が上がり、2013 年度の評価をも多くの項目で上回っている。

注目すべきは、昨年の傾向とは異なりベーシックのほうがコアコースよりも上回っている点である。昨年度はこれが逆であった。コアは必修のコースで構成されているためベーシックに比べて低くなる傾向にあるのは当然かなと思える。また、アドバンスはベーシックよりも全体的に評価が高かった。昨年度は、この傾向が逆であった。学生のコース選択と満足度のマッチがコアよりもベーシック、そしてベーシックよりもアドバンスのほうが良くなった傾向を示しているので、これが本来あるべき評価の傾向であろう。

個々の項目で見ると、コア科目群、ベーシック科目群、アドバンス科目群すべてで質問 3 「The instructor's knowledge level was high enough to teach the course」が昨年同様最も高く夫々 4.64、4.70、4.79 と 4.6 を上回る高い評価であった。この結果からも、教員の知識レベルを学生が高く評価している。これらの数字は昨年度よりも高かった。

一方、一番低い評価項目は、コア科目群で質問 11 「you made additional efforts for the course such as searching related materials for course topics」の 4.19、ベーシック科目群では質問 8 「The course was well prepared in terms of contents and time allocation」の 4.30、アドバンス科目群では質問 11 「You made additional efforts for the course such as searching related materials for course topics」で 4.46 であった。

この結果から考察してみると、学生がテキストブックや教員の教材をあまりつかっていないのではないかとの危惧と教員の時間・量の配分にちょっと問題があると考えられる。



前者に対しては積極的に教員がテキストを購入するように指導し、授業のクイズに使用するなどで自主勉強を促すことを工夫しなければならない。後者に関してはFD活動で教員に注意を促す必要があると考えられる。

## B. 教員による授業評価アンケート

授業評価の結果が秀でた科目では、毎年指摘されているが、視聴覚教材やゲストスピーカーなど多様な素材を授業で活用したコース、学生が興味を持てる事項や現実の社会情勢を授業に織り交ぜたコース、実際のケースを取り上げた事例研究などが、学生のニーズを的確に捉え満足度向上に貢献しているとの昨年同様の結果が見受けられた。外国人が多いIMCにおいては日本に関連したトピック、また日本に関した事例経験を知りたいといった欲求の表れであると思われる。

良かったと評価する項目は、学生に授業時にプレゼンテーションを課すことで授業に積極的に関わる姿勢を動機づけするような工夫をすることで学生の学習意欲が上がったと評価している教員が多かった。また、理論や知識だけでなくそれらをどのように応用したかの事例を取り扱ったことが学生の理解の向上につながったなどの意見が見られた。

一方で、今後の改善点としては、もっと外部からスピーカーを招き現実の社会体験を学生に提供したほうが良いのではないかと回答している点、グループ議論を活発化させることが大変である点などから今後工夫して改善すべきであろう。学生の全体数が少ないので教員と学生とのコミュニケーションは活発化していることは非常に良いと感じているが、一方で、学生間のバックグラウンドや知識レベルの違いから議論の盛り上がりの欠けたという意見もあった。また、互いの勉学意欲の啓蒙・研鑽に欠けているとの印象を持った教員も多くいた。これらの傾向は昨年までも見られた傾向である。多国籍な学生の交流をどのように円滑に行うかが問題であるとの意見もあった。もう少し日本人学生がリーダーシップを発揮し、国際学生を引っ張ってまとめてほしい気がする。

昨年の評価でも指摘されているが、受講学生の予備知識の習得に関しては、IMC 内での制度的な取り組み(例えば PreMBA のような準備コースの提供など)が必要かもしれない。この取り組みにより、学生の統一的な基礎学力の向上が期待できる。特に、国際経営コースはその様々な国籍と文化的、キャリア、バックグラウンドの違いから、多様な考えと違った知識レベルの学生が入学する。それを統一的な尺度で教えることの難しさを感じる教員が多くいる。しかしながら、多く教員が非常勤や任期制であるため統一的な取り組みを進めるハードルは高い。さらに専任教員には、年々授業や公務の負担が増えている事実がある。その際には、教育の質を落とさないような慎重な準備と工夫が求められる。

また、国際経営コースは、コース選択の自由度が高く非常に柔軟なカリキュラム制度で

あるという強みであるが、一方でクラス内での学生間の知識レベルのばらつきが大きいといった弱点がある。この弱点を克服するため、ベーシックコースやアドバンスコース選択の前の prerequisite 化を検討することや、専門性を高めるためのコース選択をどのように行うかを事前にオリエンテーション時に指導する必要がある。

## 5. 会計専門職専攻

### A. 学生による授業評価

#### (1) 概要

学生による授業評価アンケートは、【設問 1】から【設問 9】が「教員の授業内容と方法」について、【設問 10】および【設問 11】が「学生自身の取り組み」について、【設問 12】から【設問 14】が「授業の満足度」について問うものである。

各設問の平均値（四捨五入）および【設問 13】とその他の設問との相関係数（四捨五入）は、次のとおりである。

<各設問の平均値と【設問 13】とその他の設問との相関係数>

番号	設問文	2015 年度春学期		2015 年度秋学期	
		平均値	問13との相関係数	平均値	問13との相関係数
1	授業内容はシラバスで示された主題や目的に十分沿っていましたか	4.8	0.55	4.8	0.39
2	教員は十分に準備をして授業に臨んでいましたか	4.8	0.52	4.9	0.42
3	教員は担当科目の授業を行うのに十分な専門知識を持っていましたか	4.9	0.48	4.9	0.39
4	授業で指定された教科書や配布された資料は、学習の助けとなりましたか	4.8	0.53	4.7	0.56
5	教員は学生が発言したり議論することに十分な配慮を払いましたか	4.6	0.35	4.6	0.39
6	教員は個々の学生の内容理解の水準を考慮していましたか	4.6	0.56	4.5	0.60
7	この授業で与えられる課題の量は適正なものでしたか	4.6	0.43	4.6	0.38
8	授業の内容と時間配分は適正なものでしたか	4.6	0.60	4.6	0.51
9	教員は学生の質問に丁寧に答えていましたか	4.7	0.52	4.7	0.55
10	この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか	4.3	0.42	4.3	0.33
11	この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか	4.1	0.31	4.2	0.33
12	この授業を受けることで分析能力や批判力がついたと思いますか	4.5	0.53	4.5	0.51
13	この授業は全般的に満足のいくものでしたか	4.7		4.7	

14	この授業は今後の学習にとって有意義なものでしたか	4.8	0.81	4.7	0.82
----	--------------------------	-----	------	-----	------

## (2) 全体評価～専攻平均値～

専攻平均値は、すべての設問の評点を延べ有効回答数で平均したもの（総平均値、四捨五入）である。会計専門職専攻が開設された 2005 年度から 2015 年度にかけての専攻平均値の推移は、次のとおりである。

### <専攻平均値の推移>

	2005 年度	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度
春学期	3.9	4.2	4.3	4.4	4.3	4.3
秋学期	4.2	4.3	4.5	4.5	4.5	4.4
	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	
春学期	4.3	4.6	4.6	4.7	4.6	
秋学期	4.4	4.6	4.7	4.7	4.6	

専攻平均値は、2007 年度秋学期まで上昇し続けた後、2008 年度秋学期まで 4.4 ないし 4.5 という値を記録し、その後も、2011 年度まで 4.3 から 4.5 で順調に推移してきた。2012 年度から 2013 年度春学期には 4.6 となり、さらに、2013 年度秋学期から 2014 年度春学期、秋学期は 4.7、2015 年度は 4.6 であり、総合的な評価としては高位での安定が図られているものといえよう。

ただし、過去、秋学期に比して春学期の方の評点が低いという傾向がみられたが、この点については、秋学期よりも春学期の方の入学者が圧倒的に多く、新入生が専門職大学院のカリキュラムなどに不慣れな点が現れている可能性が考えられる。もっとも、2012 年度以降はその様な傾向は見られていない。今後、この傾向が見られる場合には科目群（コア、ベーシック、アドバンスト）ごとの評価などを踏まえた取り組みを検討する必要があるかもしれない。

## (3) 個別評価

### ① 教員の授業内容と方法

専攻全体での平均値を見ると、各設問の平均値の傾向に大きな変化はないが、全体としては 2012 年度前と比較して、2012 年度以降では評価値のステージが高位となったことが読み取れる。特に、【設問 1】から【設問 4】および【設問 9】は 4.7 ないし 4.8 と高い評価と

なっている。

【設問 1】から【設問 4】の値を踏まえると、担当科目についての資質を有する教員が、シラバスに沿って、資料の作成等を含む十分な準備をして授業に臨んでいることについて、学生から高い評価を得ているといえる結果となっている。【設問 9】については、各科目の受講者数の減少により、質問をし易い環境があったと推定されるかもしれない。

【設問 5】から【設問 8】については上記設問に比して相対的には低い評価となっているが、2012 年度以降、2014 年度秋学期の【設問 6】を除き、2014 年度までは同位または上昇していた。したがって、授業の方法に関する教員の取り組みに対する評価も高位で安定していたが、2015 年度はそれぞれ 0.1 ポイント減少している。

以上より、専攻平均値の傾向にもみられるように、慎重な配慮も必要ではあるものの、全体としては、授業の事前準備とこれを踏まえた授業の実践などに対して、学生から高い評価を得ているといえる結果となっている。ただし、【設問 5】から【設問 8】の評価については、他の設問に比して総じて低い値となっている点に留意する必要がある。

そこで、科目群ごとの評価に目を向けると、まず、【設問 1】から【設問 4】の評価について、コア科目、ベーシック科目とアドバンスト科目の間に大きな差はない。ベーシック科目の 2014 年度秋学期の評価が 4.7 と低下したのが気になるが、2015 年度には上昇しているので大きな問題はないといえよう。

【設問 5】から【設問 8】については、コア科目の評価がベーシック科目とアドバンスト科目の評価に比して低い傾向と状況にある。したがって、前述の専攻全体での【設問 5】から【設問 8】の評価が他の設問に比して相対的に低いのは、コア科目の評価が起因していることが分かる。

#### < 【設問 1】から【設問 9】の平均値 >

	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9
(専攻全体)									
2011 年度春学期	4.7	4.7	4.8	4.5	4.3	4.3	4.4	4.4	4.6
2011 年度秋学期	4.7	4.7	4.8	4.6	4.4	4.4	4.5	4.5	4.6
2012 年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.5	4.4	4.5	4.6	4.7
2012 年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.6	4.5	4.5	4.6	4.7
2013 年度春学期	4.8	4.7	4.9	4.7	4.6	4.5	4.6	4.6	4.7
2013 年度秋学期	4.8	4.9	4.9	4.8	4.7	4.5	4.7	4.6	4.8
2014 年度春学期	4.8	4.9	4.9	4.8	4.7	4.7	4.7	4.6	4.8
2014 年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.8	4.7	4.6	4.7	4.7	4.8
2015 年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.8	4.6	4.6	4.6	4.6	4.8
2015 年度秋学期	4.8	4.9	4.9	4.7	4.6	4.5	4.6	4.6	4.7
(コア科目)									

2011年度春学期	4.7	4.7	4.8	4.4	4.2	4.2	4.3	4.4	4.5
2011年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.5	4.5	4.5	4.6	4.7
2012年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.6	4.4	4.3	4.4	4.5	4.6
2012年度秋学期	4.7	4.8	4.9	4.6	4.4	4.3	4.5	4.6	4.6
2013年度春学期	4.8	4.7	4.9	4.7	4.5	4.4	4.5	4.5	4.7
2013年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.8	4.5	4.3	4.5	4.4	4.7
2014年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.8	4.6	4.6	4.6	4.6	4.8
2014年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.8	4.7	4.5	4.7	4.7	4.7
2015年度春学期	4.7	4.7	4.9	4.7	4.5	4.5	4.6	4.5	4.7
2015年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.5	4.5	4.5	4.5	4.7
(ベーシック科目)									
2011年度春学期	4.6	4.7	4.8	4.6	4.5	4.4	4.3	4.5	4.7
2011年度秋学期	4.7	4.8	4.9	4.7	4.5	4.4	4.5	4.6	4.7
2012年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.6	4.4	4.5	4.6	4.7
2012年度秋学期	4.9	4.8	4.9	4.8	4.7	4.6	4.6	4.7	4.8
2013年度春学期	4.8	4.7	4.9	4.7	4.6	4.5	4.6	4.7	4.8
2013年度秋学期	4.9	4.9	4.9	4.9	4.7	4.7	4.8	4.7	4.9
2014年度春学期	4.9	4.9	4.9	4.9	4.7	4.7	4.8	4.8	4.8
2014年度秋学期	4.8	4.8	5.0	4.7	4.7	4.6	4.7	4.7	4.9
2015年度春学期	4.9	4.9	5.0	4.9	4.6	4.7	4.7	4.7	4.8
2015年度秋学期	4.8	4.9	4.9	4.8	4.7	4.6	4.7	4.7	4.7
(アドバンスト科目)									
2011年度春学期	4.7	4.7	4.9	4.7	4.7	4.6	4.6	4.6	4.8
2011年度秋学期	4.7	4.8	4.8	4.8	4.7	4.7	4.5	4.5	4.7
2012年度春学期	4.8	4.9	4.9	4.8	4.8	4.7	4.6	4.7	4.9
2012年度秋学期	4.8	4.9	4.9	4.8	4.7	4.6	4.6	4.6	4.8
2013年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.9	4.6	4.6	4.7	4.8
2013年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.8	4.7	4.6	4.7	4.7	4.8
2014年度春学期	4.9	5.0	4.9	4.9	4.9	4.8	4.8	4.6	4.9
2014年度秋学期	4.9	4.9	4.9	4.8	4.7	4.7	4.7	4.8	4.8
2015年度春学期	4.9	4.9	4.9	4.8	4.8	4.6	4.7	4.6	4.9
2015年度秋学期	4.8	4.9	4.9	4.8	4.8	4.7	4.8	4.7	4.8

コア科目は導入教育に該当する科目が多く、そこで、講義形式で一定量の負荷をもって実施されることが多い。また、会計士・税理士をめざすプログラムの授業内容は、近年の企業会計基準の新設・改訂によって増加している傾向にあらう。このような導入教育段階にあるコア科目の受講時において、学生が授業内容および課題の取り組みにとりわけ負荷を感じていることが考えられる。さらに、入学時点での会計知識の水準が影響している可能性も想起される。

以上、専攻全体に係る【設問1】から【設問4】の評価より、学生が教員の授業内容の意義を理解していることが示唆されることから、会計専門職専攻開設以来、教育面での一定

の成果が維持されていることが説明できるであろう。ただし、【設問 5】から【設問 8】の評価からは、特にコア科目について、学生の理解度を高める工夫が問われており、授業内容の質の確保と時間配分、課題の質と量については今後も継続的に注意していくとともに、効果的かつ効率的な方法で授業が実践されることが望まれる。例えば、②学生自身の取り組みで述べる、予習・復習、課題などを含めた授業全体の構成を検討することも考慮されてもよいであろう。もっとも、基礎的教育であるがゆえの課題の量について起因する部分はやむ得ない面もあろう。

< 【設問 10】から【設問 14】の平均値 >

	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
(専攻全体)					
2011 年度春学期	4.0	3.9	4.2	4.5	4.6
2011 年度秋学期	4.1	4.0	4.3	4.6	4.6
2012 年度春学期	4.1	4.0	4.3	4.6	4.7
2012 年度秋学期	4.2	4.1	4.4	4.7	4.7
2013 年度春学期	4.2	3.9	4.3	4.6	4.6
2013 年度秋学期	4.4	4.2	4.5	4.7	4.7
2014 年度春学期	4.3	4.0	4.4	4.8	4.8
2014 年度秋学期	4.3	4.1	4.5	4.8	4.8
2015 年度秋学期	4.3	4.1	4.5	4.7	4.8
2015 年度秋学期	4.3	4.2	4.5	4.7	4.7
(コア科目)					
2011 年度春学期	4.0	3.8	4.1	4.4	4.5
2011 年度秋学期	4.2	4.1	4.4	4.6	4.7
2012 年度春学期	4.1	3.8	4.2	4.5	4.6
2012 年度秋学期	4.1	3.9	4.2	4.5	4.6
2013 年度春学期	4.2	3.9	4.2	4.5	4.6
2013 年度秋学期	4.4	4.1	4.3	4.6	4.7
2014 年度春学期	4.3	3.9	4.3	4.7	4.8
2014 年度秋学期	4.1	4.0	4.4	4.7	4.7
2015 年度秋学期	4.3	4.0	4.4	4.7	4.7
2015 年度秋学期	4.3	4.1	4.3	4.6	4.7
(ベーシック科目)					
2011 年度春学期	4.0	4.0	4.3	4.6	4.7
2011 年度秋学期	4.2	4.1	4.4	4.6	4.7
2012 年度春学期	4.2	4.1	4.3	4.6	4.7
2012 年度秋学期	4.3	4.2	4.6	4.8	4.8
2013 年度春学期	4.3	4.0	4.5	4.6	4.7
2013 年度秋学期	4.5	4.3	4.5	4.8	4.8
2014 年度春学期	4.3	4.1	4.5	4.8	4.8

2014年度秋学期	4.4	4.1	4.6	4.8	4.9
2015年度秋学期	4.3	4.1	4.5	4.8	4.8
2015年度秋学期	4.3	4.2	4.5	4.8	4.7
(アドバンスト科目)					
2011年度春学期	4.1	4.3	4.5	4.8	4.8
2011年度秋学期	4.2	4.2	4.5	4.6	4.7
2012年度春学期	4.3	4.3	4.6	4.8	4.8
2012年度秋学期	4.3	4.2	4.6	4.8	4.8
2013年度春学期	4.2	4.1	4.4	4.7	4.7
2013年度秋学期	4.4	4.2	4.5	4.7	4.8
2014年度春学期	4.3	4.2	4.6	4.9	4.9
2014年度秋学期	4.3	4.2	4.6	4.8	4.9
2015年度秋学期	4.4	4.3	4.7	4.8	4.8
2015年度秋学期	4.4	4.3	4.7	4.8	4.8

## ② 学生自身の取り組み

「学生自身の取り組み」を問う【設問 10】と【設問 11】の評価は、春学期よりも秋学期の方が高くなる傾向がある。【設問 10】については、2013 年度秋学期にこれまでで最も高い値となっているが、傾向として、2012 年度秋学期以降その前の学期に比して高い評価となっている。学生自身の予習・復習の取り組みが少しずつ積極化していると考えられる。

【設問 11】は全ての設問の中で、最も低い評価となっている。自分から文献を探すなどの努力について改善の取り組みを促す必要がある。

ただし、【設問 10】と【設問 11】は他の設問に比して、依然、低い値である。これは、学生自身の謙虚な姿勢が表れている可能性があるものの、予習・復習、課題を含めた授業全体の実践に改善の余地があるものとも言えよう。この点は、本学だけでなく、専門職大学院の教育一般にとっても課題となっているテーマであることから、今後とも注視しなければならない。

### <学生自身の取り組みに係る評価の推移>

	2008年度 春学期	2008年度 秋学期	2009年度 春学期	2009年度 秋学期	2010年度 春学期	2010年度 秋学期	2011年度 春学期	2011年度 秋学期
設問 10	3.9	4.1	3.9	4.1	3.9	4.0	4.0	4.1
設問 11	3.8	3.9	3.8	4.0	3.8	3.9	3.9	4.0
	2012年度 春学期	2012年度 秋学期	2013年度 春学期	2013年度 秋学期	2014年度 春学期	2014年度 秋学期	2015年度 春学期	2015年度 秋学期
設問 10	4.1	4.2	4.2	4.4	4.3	4.3	4.3	4.3

設問 11	4.0	4.1	3.9	4.2	4.0	4.1	4.1	4.2
-------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

教員による継続的な取り組みとして、【設問 10】に関しては、後述の教員の担当科目自己評価表と合わせて検証し、改善策を検討して、これを実践することが考えられる。特に、授業で与える課題の量を予習・復習との関係も踏まえて設定するなど、予習・復習、課題などを含めた授業全体の構成を検討することも必要であろう。

【設問 11】に関しては、【設問 4】とも関係するが、教科書・配布資料に加えて、教員が授業中に参考文献などを紹介すること、レポートや課題を課す際には文献にあたるよう指導をすることを、これまで以上に行うべきであると考えられる。

### ③ 授業の満足度

【設問 12】から【設問 14】に対する評価は、授業に対する評価の結論的指標となるものであり、2014年度、2015年度の両年度とも、2013年度に引き続き、高い値となっている。

分析能力や批判力が養成されたかを問う【設問 12】については、コア科目の評価がベーシック科目とアドバンスト科目の評価に比して低いものとなっている。上述のとおり、コア科目は分析能力や批判力の基礎知識を涵養する導入教育であることから、やむを得ない部分もあるかと思われるが、授業方法に工夫を図れないか、担当教員に検討を期待したいところである。教員全体としては、後述の教員の担当科目自己評価表の検討を踏まえて、FD活動において取り上げるべき課題としていくことも考えられる。

さて、学生の満足度を問う【設問 13】と比較的高い相関を見せたのは、春学期では、【設問 1】(0.55)、【設問 6】(0.56)、【設問 8】(0.60)、秋学期では、【設問 4】(0.56)、【設問 6】(0.60)であった。これらからは、適切な教科書や配布資料を用いて、個々の学生の理解水準に応じたフォローを行い、授業の内容と時間配分を適切な水準に置き、これらをつうじて、分析能力や批判力の涵養を図っていくことが、学生の満足度につながることを示しているといえよう。

以上より、授業の事前準備のなかで適切な教科書を選択し、配布資料を制作して、授業内容の水準と量（予習・復習、課題などを含む。）そして授業時間とのバランスを図り、より分析能力・批判力が涵養される授業を実践していくことの重要性を引き続き指摘できよう。

## B. 教員による担当科目自己評価

教員による担当科目自己評価表は、【設問 1】この科目を担当するにあたって最も力を入れたことは何ですか、【設問 2】この科目において、①実施してよかった点と②改善・工夫



をした方がよい点は何ですか、【設問 3】この科目を担当するにあたって当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、ご自身の思っていた目標は達成されたと思いますか、という3つの設問について、担当教員が記述形式で回答するものである。

以下では、各設問に対する回答の傾向を把握するために回答内容を分類し、これに基づいて分析を行っている。ただし、次のような制約、限界がある点に留意されたい。まず、分類にあたっては回答の文言よりもその趣旨に基づいているが、各設問の回答は記述形式であるため、その判断が主観的なものとならざるを得ない部分がある。また、全体的な傾向を明らかにするため、回答が1つもしくは2つの場合には、表には含めていない。なお、開講が複数回なされている科目については重複してカウントしていないが、1つの設問に対して複数の回答しているものについては、それぞれカウントしている。

#### (1) 【設問 1】に対する回答内容とその分析

【設問 1】（この科目を担当するにあたって最も力を入れたことは何ですか）に対する回答内容の概要は、次の表のとおりである。

##### < 【設問 1】に対する回答内容 >

	コア科目	ベーシック科目	アドバンス科目
基礎的・体系的知識の習得	18	9	4
事例・実務を踏まえた講義	3	10	11
一定水準の知識・能力の修得	—	6	12
基本的な計算力・論述力の涵養	3	4	4
担当科目に関する詳細な解説	—	1	9
グループワーク・ディスカッションなど双方向な講義の実践	1	1	8
実践的な能力の習得	1	2	6
丁寧な解説	2	2	2
学生による自主的・積極的な学習実践の促進	1	1	2

コア科目では、基礎的・体系的知識の習得を図ることに最も力を入れているとの回答が突出して多い。これは、コア科目の性格上、首肯しうところであろう。ベーシック科目においても基礎的・体系的知識の習得を図るとの回答が多く、また、これよりも高い水準での知識・能力の修得といった回答もみられる。このような取り組みの中で、事例の活用や、実務を踏まえた講義を行うことに最も力を入れたとの回答が多くなっている。アドバ

ンスト科目では、専門性を高めるために、一定水準の知識・能力の修得を図ることに最も力を入れているとの回答が多くなり、そこでは、科目の性格に応じて、深みのある詳細な解説を行う講義、事例・実務を踏まえた講義、さらには実践的な能力の修得を図ることに最も力を入れたとの回答がみられる。さらに、講義の実施にあたって、双方向の講義を実践することに最も力を入れたとの回答が多いのが特徴といえる。

## (2) 【設問2】に対する回答内容とその分析

【設問2】は、①担当科目において実施してよかった点と、②担当科目について改善・工夫をした方がよい点に対する自己評価を回答することとなっている。

### ① 担当科目において実施してよかった点

担当科目において実施してよかった点に対する回答内容の概要は、次の表のとおりである。

#### <担当科目において実施してよかった点に対する回答内容>

	コア科目	ベーシック科目	アドバンスト科目
小テスト・中間テストの実施	8	7	4
宿題・レポートなどの課題	7	8	10
要点を得たもしくは詳細なレジユメの作成	5	2	1
基礎知識の確認等を踏まえた丁寧な解説・指導	3	3	6
事例・実務に則した講義	2	7	8
講義時間中での演習	2	1	5
テスト・課題に対するコメントのフィードバック	2	1	1
学生による課題報告（発表）や意見発信	1	2	16
双方向な講義の実践	1	7	12
グループワーク、グループディスカッション	—	3	3

コア科目では、小テスト・中間テストの実施や宿題・レポートなどの課題を課すこととの回答が多く、これは、【設問1】を踏まえた基礎的・体系的知識の定着を図るために実施されているものと考えられる。また、レジユメの作成といった教員独自の教材を開発していることも見受けられる。ベーシック科目では、コア科目と同様に、知識の定着を図るための取組みに加えて、【設問1】を踏まえて事例・実務に則した講義の実施との回答が増えている。また、双方向な講義への取組みもみられる。アドバンスト科目においても、ベー

シック科目同様では、【設問 1】を踏まえて事例・実務に則した講義の実施との回答がみられるが、これ以上に、レポートなどの課題を課すだけでなく、それを報告・発表させる取組み、双方向な講義の実践といった回答が顕著となっている。

② 担当科目について改善・工夫をした方がよい点

担当科目について改善・工夫をした方がよい点に対する回答内容の概要は、次の表のとおりである。

<改善・工夫をした方がよい点に対する回答内容>

	コア科目	ベーシック科目	アドバンス科目
レジュメ・テキスト・配布資料等の教材の改善	7	7	5
講義（解説）・演習などの時間配分	6	2	3
学生の予備知識・理解度の差への対応	4	10	9
双方向な講義の導入・双方向性を増やす取組み	3	5	6
学生による自発的学習の促進	3	2	5
講義内容の質と量のバランス	2	3	6
演習問題などの改善	2	—	2
小テストや課題の実施ないしその分量	1	1	1
学生の多様性への配慮	—	—	4
特になし	3	2	3

コア科目では、事例の活用といった教材の改善、講義と演習の時間配分という回答が比較的多く、基礎的・体系的な知識の習得に資するようすべく改善・工夫を図る姿勢が現れているといえよう。ベーシック科目では、コア科目と同様に、事例の活用といった教材の改善という回答がみられるが、これ以上に、学生の予備知識・理解度の差への対応といった回答が最多となっている。コア科目に関する知識を要するようなベーシック科目では、当該知識の差が理解度に影響するであろうし、【設問 1】にあったように、事例・実務を踏まえた講義の実践において、実務経験のない学生への対応が課題として意識されているといえよう。これらの点はアドバンス科目にもみられ、講義内容の質と量のバランスの改善といった回答に現れている可能性がある。このほか、アドバンス科目では、双方向な講義を実践している科目では、予習はもとより学生による自発的学習も必要となってくることから、これを促進する工夫が課題として認識されている。また、講義・演習を中心

とする科目においては、双方向性を導入する工夫が課題として認識されている。

### (3) 【設問 3】に対する回答内容とその分析

【設問 3】（この科目を担当するにあたって当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、ご自身の思っていた目標は達成されたと思いますか）に対する回答内容の概要は、以下の表のとおりである。

コア科目では 1 科目、ベーシック科目では 3 科目、アドバンスト科目では 5 科目で、半分程度しかもしくはあまり達成できなかったとの回答があるが、これらは、教員の講義への取組みそれ自体に対するものというよりも、期末試験等の結果を踏まえ、修得水準まで達していない学生がいることに対する教員自身の自省等を反映したものである。そこで、講義内容の質と量のバランスや学生の理解度の差への対応を講義期間中に適時、適切にとりながら目標を達成しているものと言えよう。

#### < 【設問 3】に対する回答内容 >

	コア科目	ベーシック科目	アドバンスト科目
達成できた・ほぼ達成できた	22	26	34
半分程度達成できた・あまり達成できなかった	1	3	5

### (4) 教員による担当科目自己評価の特徴と今後への示唆

以上を踏まえ、アカウンティングスクールの教員による担当科目自己評価にみられる講義への取組みの特徴と今後の改善・工夫への取組みの方向性とさらなる課題として、次の諸点が挙げられるであろう。

まず、コア科目に関しては、基礎的・体系的知識の習得に力点が置かれ、知識の定着を図るべく、小テスト・中間テストの実施、宿題・レポートを課すとともに、独自のレジュメを作成するといった取組みが行われている。学生による授業評価アンケートの【設問 12】（この授業を受けることで分析能力や批判力がついたと思いますか）について、コア科目の評価がベーシック科目とアドバンスト科目の評価に比して低いものとなっているが、この点は、上記を踏まえると、やむを得ない部分でもあろうが、授業方法に工夫を図れないか、担当教員に検討を期待したいところである。

理論系の科目と実践（実務）系の科目が含まれるベーシック科目では、基礎的・体系的知識の習得に最も力を入れている講義と、事例・実務を踏まえ講義を行うことに最も力を入れているとする講義がみられる。実施してよかった点においても、事例・実務を踏まえ講義という回答が増えている。また、双方向な講義を実践してよかったとする講義がある

とともに、今後、そのような方向に改善・工夫を考えている講義もみられる。

アドバンスト科目では、専門性を高めるために、一定水準の知識・能力の修得、担当科目の詳細な解説を図ることに最も力を入れているとの回答と、事例・実務を踏まえ講義、実践的な能力の修得に最も力を入れたとの回答が多い。そのために、課題などについて、提出するだけにおおらず、これを講義において報告（発表）することを実施する、また、双方向の講義を実践する取組みが多く行われている。

学生による授業評価アンケートでは、【設問 10】（この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか）と【設問 11】（この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか）の値が他の設問に比して低い値となっている。コア科目とベーシック科目では、知識の習得・定着に重きを置き、復習を重視した取組みが行われている傾向にあり、予習、さらには自発的な学習を促す取組みが不十分かもしれない。アドバンスト科目では、課題の報告（発表）や双方向への取組みによってこの点を改善することが図られているかもしれないが、予習・復習、課題、さらに学生の問題意識を喚起し自発的な学習を促す取組みを図っていくことは、1つの課題といえるであろう。

教員による担当科目自己評価ではあるが、最後に、＜改善・工夫をした方がよい点に対する回答内容＞に多くみられた学生の予備知識・理解度の差への対応について言及しておきたい。1つの項目にまとめているが、回答には大きく2つの側面がある。1つは、実践（実務）系の科目において、実務経験のない学生への対応が講義の実施にあたって配慮すべき要素となっている点である。もう1つは、ベーシック科目、アドバンスト科目では、コア科目・ベーシック科目レベルの知識が不足・欠如していると、講義の理解度に影響することから、その対応に苦慮している点である。前者については、そのような対応への改善・工夫に引き続き取り組んでいくことは不可欠であり、後者については、学生への履修指導、シラバス、講義開始時のガイダンスの改善・充実といったことを図っていくことが必要といえよう。

## 6. 今後の課題

### A. 経営戦略専攻企業経営戦略コース

#### (1) 学生アンケート

コア科目、ベーシック科目、アドバンスト科目の科目群別に、設問 12 の「この授業を受けることで分析能力や批判力がついたと思いますか」、設問 13 の「この授業は全般的に満足 of いくものでしたか」、設問 14 の「この授業は今後の学習にとって有意義なものでしたか」の科目ごとの平均（小数第 3 位で四捨五入）を示したものである。各科目の授業の平均点については、履修人数、受講した学生など、様々な事情も絡んでいる。個々の教員がそれぞれに適切に分析し、今後の授業に生かしていくことが求められるであろう。

#### (2) 教員による担当科目自己評価

経営戦略専攻企業経営戦略コース所属教員による担当科目の自己評価を、コア、ベーシック、アドバンスト、課題研究の 4 つの科目群に分けて、各質問項目について課題を分析・考察した。

コア科目群についての「改善・工夫をした方が良い点」について、履修者数が多い科目が多いコア科目ならではのコメントとして「受講生のバックグラウンドの違いや理解度のバラツキの大きさ」、グループ発表でのフリーライダー問題が挙げられていた。受講生のバックグラウンドの違いとして、たとえば、「エクセルができない学生がいる…(中略)…エクセルのためのアシスタントが授業中ほしい」という要望もあった。もっとも入学前の特別授業でエクセルを扱っているので、受講者が自助努力をするよう履修前のガイダンス等で重ねて学生に求めるなどの改善ができると考えられる。また、必修科目の英語ではクラスごとの履修者数の平準化を求める声があった。こちらも、他にベーシック科目にあった「クラスの人数にあった大きさの教室の割り当て」の要望とともに研究科として改善を検討すべきだろう。

ベーシック科目群についても、「グループ討議をする際、積極的な受講者と消極的な受講者が存在すること」「ケースを熟読してこない学生への対応」など、コア科目でも見られた受講者のばらつきの問題がベーシック科目群でも挙げられた。それについては、「論点を絞って討議する方がいい」「早いうちに受講者のバックグラウンドを把握し、それを活かした発言を引き出すなど…(中略)…講義の双方向性を一層高めた方がいい」「解答についてもう少し説明を付け加えた方がいい」「来年は各人の進捗具合をチェックする小テストを考えている。」「生徒間での討論・意見発言となる話題提示ができればと思った」などが挙げられ

ていたが、他の教員の②「実施してよかった点」も参考にして改善できることがありそうである。

また、授業内容の配分について、「もう少し1回の講義の内容を減らし、その時間を演習時間として利用した方が良かったかもしれない」「もっと応用的な内容を取り込むと同時に、〇〇のケースも講義対象にすべきだった」「新しい事項を盛り込むと時間オーバーになりがちだったので、気を付けたい」などの改善点も挙げられた。

今年度から新しく加わった公共経営プログラムでは、「官庁等の勤務経験のない受講生」を意識した改善が挙げられていた。

③「目標が達成されたか」については、「おおむね達成された」という意見が多かったが、上記②の改善・工夫が挙げられていた通りで、改善は今後も重ねられるだろう。

アドバンスト科目群について、「授業前日までに LUNA に講義の教材や受講生の連絡事項を掲示しているが、事前に予習してくる受講生はそれほど多くない。今後はアサインメントを明確に指示することにした。」「事前に宿題を設けるなどにより学生の考察機会を設けたい」など学生の事前学習を促す工夫を提示した意見が多かった。

アドバンスト科目ともなると授業内容が多岐にわたることもあり、「授業内容を詰め込みすぎ、履修生とのディスカッション時間が取れなかった」「今回は少し難度を挙げたため、講義についていけないケースが散見された。復習の機会を設ける工夫が必要」「内容を絞り、Q&A の時間を多くすること」「ケースの理解について個人間のバラつきがあったので、別途時間を使った対応することが必要」などが挙げられていた。また、学生との情報共有、学生の理解度把握などのために、LUNA のより一層の活用を挙げた教員もいた。

③「目標が達成されたか」については、コア・ベーシック科目と異なり、具体的に目標に対する達成度を記載して、手ごたえを得ながらも、②の改善点をはじめとして、「今後は、テーマや問題を深掘して、解決 - 実証(調査など)を含めて「議論」を広げていく工夫を考えていきたい」「新しいことを盛り込むのが十分になしえなかった点を反省」など、その分野に即した改善も挙げている教員が多かった。

課題研究科目群について、課題研究は、課題研究基礎で研究の方法を学び、他の科目の多くを履修した後の学びの集大成と位置づけられる科目である。それに関連して、課題研究の自己評価で「課題研究基礎のうちから論文のテーマを具体化し、データ収集を開始するなど、早期に課題研究論文の準備を始めさせた方がいい」という教員がいた。同様に、課題研究基礎の方でも「課題研究と基礎の参加者が必ずしも一致していないために、目標には到達できない」と記載している教員もいた。また「事前に受けてくる科目のバラつきによって事前学習の対応を緻密に行うこと」という意見もあった。課題研究と課題研究基礎、他の科目との連動を教員間で工夫・検討した方がいいのかもしれない。

③「目標が達成されたか」については、課題研究基礎と課題研究ともに「おおむね達成された」とする教員が多かったが、一部の学生には当てはまらないと学生間のばらつきに苦慮する教員も毎年のことながらいる。

以上を全般に見てみると、②の「改善・工夫した方が良い点」について、当専攻で授業を担当して初めてあるいは間もなくの教員の中には多くの点を挙げ、逆に本研究科での教歴が長い教員には「特になし」という記述が多いという傾向はあるものの、「4年目にして、やっと目標の授業が達成できた」「今年は〇〇をしてみた」など毎年工夫を重ねている教員が多い。今後も、他の教員の②の「実施してよかった点」を参考にするなど教員間で情報共有して改善できることはあると考えられる。もちろん、個々の学生による授業評価アンケートの結果に基づいた改善を重ねる努力も必要であろう。

## B. 経営戦略専攻国際経営コース

### (1) 学生アンケート

通年での学生による授業全体評価の水準自体は概ね高い評価で推移している。2015年度の数値は2014年に比べてほぼ同程度で推移している。設問14のうち半分の7項目で2015年度は2014年度を上回り、それ以外の項目で若干下回った。しかし、通年で見ると、設問10の4.45を除いてほぼすべての質問項目の平均が4.5点を上回る高い数字であり、「Strongly Agree」、「Agree」の中間の値であるがどちらかというところ「Strongly Agree」に近い数字となっている。つまり、質問項目のすべてが4.0を超えているという「高い評価」結果を得ている。さらに、多くの質問項目の平均点が4.5を上回る高水準であることを評価したい。

本分析結果から伺えるのは、学生の勉学意欲が昨年度、一昨年度より高くなったが、まだ向上の余地がある点である。昨年度も指摘したが、学生の勉学意欲の低下が授業の内容が難しく感じる、または勉強時間が足りなかったという評価がこのような結果になったのではないだろうか。また、教員の時間・量の配分にこれから注意を払うべきであろう。

過去2年との比較をしてみると昨年2015年度は2014年度よりもほぼすべての項目で上回ったが学生の学習意欲や教員の時間・量の配分には注意をする必要がある。

学生の教員に対する満足度は高い。背景には、継続的な教員のFDの努力が伺えるが、学生数が少人数のクラスのため丁寧に応答型の教育手法のため内容が学生に十分に伝わるクラスが多いので満足度が高く推移していると考えられる。また、近年の学生の国籍が多様化していること、多様な意見が集う討論形式の授業が多いので学生のクラスへの貢献と理解度の向上が工夫されているので満足度が高いとも考えられる。今後の評価の傾向を注視すべきであるが、この高い満足レベルを維持したいと考える。



## (2) 教員による担当科目自己評価

今後の改善点としては、もっと外部からスピーカーを招き現実の社会体験を学生に提供したほうが良いのではないかと回答している点、グループ議論を活発化させることが大変である点などから今後工夫して改善すべきであろう。学生の全体数が少ないので教員と学生とのコミュニケーションは活発化していることは非常に良いと感じているが、一方で、学生間のバックグラウンドや知識レベルの違いから議論の盛り上がりの欠けたという意見もあった。また、互いの勉学意欲の啓蒙・研鑽に欠けているとの印象を持った教員も多くいた。これらの傾向は昨年までも見られた傾向である。多国籍な学生の交流をどのように円滑に行うかが問題であるとの意見もあった。

また、国際経営コースは、コース選択の自由度が高く非常に柔軟なカリキュラム制度であるという点が強みであるが、一方でクラス内での学生間の知識レベルのばらつきが大きいといった弱点がある。この弱点を克服するため、ベーシックコースやアドバンストコース選択の前の prerequisite 化を検討することや、専門性を高めるためのコース選択をどのように行うかを指導する必要があるのかもしれない。

## C. 会計専門職専攻

### (1) 学生アンケート

会計専門職専攻の学生の今回のアンケート結果について分析すると、専攻平均値は、2007年度秋学期まで上昇し続けた後、2008年度秋学期まで4.4ないし4.5という値を記録し、その後も、2011年度まで4.3から4.5で順調に推移してきた。2012年度から2013年度春学期には4.6となり、さらに、2013年度秋学期から2014年度春学期、秋学期は4.7、2015年度は4.6であり、総合的な評価としては高位での安定が図られているものといえよう。

ただし、過去、秋学期に比して春学期の方の評点が低いという傾向がみられたが、この点については、秋学期よりも春学期の方の入学者が圧倒的に多く、新入生が専門職大学院のカリキュラムなどに不慣れな点が現れている可能性が考えられる。もっとも、2012年度以降はその様な傾向は見られていない。今後、この傾向が見られる場合には科目群(コア、ベーシック、アドバンスト)ごとの評価などを踏まえた取り組みを検討する必要があるかもしれない。

専攻全体での平均値を見ると、各設問の平均値の傾向に大きな変化はないが、全体としては2012年度前と比較して、2012年度以降では評価値のステージが高位となったことが読み取れる。特に、【設問1】から【設問4】および【設問9】は4.7ないし4.8と高い評価となっている。

【設問1】から【設問4】の値を踏まえると、担当科目についての資質を有する教員が、

シラバスに沿って、資料の作成等を含む十分な準備をして授業に臨んでいることについて、学生から高い評価を得ているといえる結果となっている。【設問 9】については、各科目の受講者数の減少により、質問をし易い環境があったと推定されるかもしれない。

【設問 5】から【設問 8】については上記設問に比して相対的には低い評価となっているが、2012 年度以降、2014 年度秋学期の【設問 6】を除き、2014 年度までは同位または上昇していた。したがって、授業の方法に関する教員の取り組みに対する評価も高位で安定していたが、2015 年度はそれぞれ 0.1 ポイント減少している。

以上より、専攻平均値の傾向にもみられるように、慎重な配慮も必要ではあるものの、全体としては、授業の事前準備とこれを踏まえた授業の実践などに対して、学生から高い評価を得ているといえる結果となっている。ただし、【設問 5】から【設問 8】の評価については、他の設問に比して総じて低い値となっている点に留意する必要がある。

そこで、科目群ごとの評価に目を向けると、まず、【設問 1】から【設問 4】の評価について、コア科目、ベーシック科目とアドバンスト科目の間に大きな差はない。ベーシック科目の 2014 年度秋学期の評価が 4.7 と低下したのが気になるが、2015 年度には上昇しているので大きな問題はないといえよう。

【設問 5】から【設問 8】については、コア科目の評価がベーシック科目とアドバンスト科目の評価に比して低い傾向と状況にある。したがって、前述の専攻全体での【設問 5】から【設問 8】の評価が他の設問に比して相対的に低いのは、コア科目の評価が起因していることが分かる。

## (2) 教員による担当科目自己評価

コア科目に関しては、基礎的・体系的知識の習得に力点が置かれ、知識の定着を図るべく、小テスト・中間テストの実施、宿題・レポートを課すとともに、独自のレジюмеを作成するといった取組みが行われている。学生による授業評価アンケートの【設問 12】(この授業を受けることで分析能力や批判力がついたと思いますか) について、コア科目の評価がベーシック科目とアドバンスト科目の評価に比して低いものとなっているが、この点は、上記を踏まえると、やむを得ない部分でもあろうが、授業方法に工夫を図れないか、担当教員に検討を期待したいところである。

理論系の科目と実践(実務)系の科目が含まれるベーシック科目では、基礎的・体系的知識の習得に最も力を入れている講義と、事例・実務を踏まえ講義を行うことに最も力を入れているとする講義がみられる。実施してよかった点においても、事例・実務を踏まえ講義という回答が増えている。また、双方向な講義を実践してよかったとする講義があるとともに、今後、そのような方向に改善・工夫を考えている講義もみられる。

アドバンスト科目では、専門性を高めるために、一定水準の知識・能力の修得、担当科目の詳細な解説を図ることに最も力を入れているとの回答と、事例・実務を踏まえ講義、実践的な能力の修得に最も力を入れたとの回答が多い。そのために、課題などについて、提出するだけにおわらず、これを講義において報告（発表）することを実施する、また、双方向の講義を実践する取組みが多く行われている。

学生による授業評価アンケートでは、【設問 10】（この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか）と【設問 11】（この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか）の値が他の設問に比して低い値となっている。コア科目とベーシック科目では、知識の習得・定着に重きを置き、復習を重視した取組みが行われている傾向にあり、予習、さらには自発的な学習を促す取組みが不十分かもしれない。アドバンスト科目では、課題の報告（発表）や双方向への取組みによってこの点を改善することが図られているかもしれないが、予習・復習、課題、さらに学生の問題意識を喚起し自発的な学習を促す取組みを図っていくことは、1つの課題といえるであろう。

教員による担当科目自己評価ではあるが、最後に、＜改善・工夫をした方がよい点に対する回答内容＞に多くみられた学生の予備知識・理解度の差への対応について言及しておきたい。1つの項目にまとめているが、回答には大きく2つの側面がある。1つは、実践（実務）系の科目において、実務経験のない学生への対応が講義の実施にあたって配慮すべき要素となっている点である。もう1つは、ベーシック科目、アドバンスト科目では、コア科目・ベーシック科目レベルの知識が不足・欠如していると、講義の理解度に影響することから、その対応に苦慮している点である。前者については、そのような対応への改善・工夫に引き続き取り組んでいくことは不可欠であり、後者については、学生への履修指導、シラバス、講義開始時のガイダンスの改善・充実といったことを図っていくことが必要といえよう。

今般の学生による授業評価アンケート、教員による担当科目自己評価や試験結果を再度吟味することにより、客観的な自己評価を継続していく。また、そうした自己評価に加えて、FD活動も継続して行っていく。

以 上

関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科  
自己評価委員会

コンビーナー 前田 祐治